

# 学体連会報

発行日 平成 14 年 6 月 25 日  
東京都渋谷区代々木神園町 3 番 1 号  
国立オリンピック記念青少年総合センター内  
財団法人 日本学校体育研究連合会  
電 話 (03) 3465-3954  
F A X (03) 3465-7464  
発 行 者 浅 田 隆 夫

## 「ゆとり」と「学習」のすすめ考

会 長 浅 田 隆 夫



### 1. 教育改革の難しさ

教育改革は子どもの教育について中央と地方との間の管理方式を見直し、民間の活動内容・方法・経営などの構造を変えていくこと、つまり国家の権限を地方へ移譲していくということです。

ところがわが国は、フランス革命にみられるように市民自らの犠牲の上に築きあげられた国とは違って、敗戦によりそれが他から与えられたものだけに改革への難しさがあるということです。

その証拠に15年も前に「臨教審」が生涯教育の一貫として今日の教育改革を提案し、この4月からその実行段階に入っているにも拘わらず「官」「民」とともに、なお改革の論議が絶えないといった状態で、ここにわが国社会特有の脆弱性がみられると思うのです。

### 2. 期待される教師の裁量と「場」の確保

#### (1) 教師の裁量

従来の知育（主として左脳のはたらき）の内容はコンピューターでかなり代行できますが、カンや創造性・耐性や体力・社会性といった能力は右脳の役割で、特に少子化の今の子どもに欠けている能力は後者（右脳）に関わるものです。これを担う「場」が今回の総合的な学習と学校週5日制に他ならないといえるのであって、しかもこの2つの「場」が生かせる勝れた教科は体育科であるといえましょう。体育科で総合的な学習を取りあげるとすれば、教科体育で何をどの程度学習させるかを精査・厳選し、その他の内容について学習することになると思いますが、学校体育という立場からすれば、栄養・運動・休養（睡眠）・生活リズムなどといった問題を調和的相補的に学習していくような試みが考えられます。

これらの問題はすべて義務教育段階、わけても小学校期の早い時期に家庭や地域と協力して解決し、習慣づけておくべき好箇の題材です。

もちろんこれらの内容は個別に取りあげてもよいし、学年や年次ごとに或は全校あげて計画的に取りあげることもできます。全校あげて何ヵ年計画かで取り組むような場合には、それぞれの領域ごとの基礎・基本の学習や啓蒙、それらの内容の重要性の理解と意識改革も必要だし、また校長の積極的率先垂範の他、初年度には保護者への協力を求めるための講演会や家庭通信なども必要になるでしょう。さらには事後の具体的な予定を公開したりなど……校長のリーダーシップのもとに学校全体の取り組みへと展開していくことも必要になるでしょう。まさに教師の裁量いかんが、その成果を決定することになると思うのです。

#### (2) 「場」の確保とユニークな運営

子どものために魅力的な活動が展開されるためには、「場」と人の確保が重要であることはいうまでもありません。その有力な受け皿の一つが総合型地域スポーツクラブであり、スポーツリーダーの養成（拙稿・会報35号参照）です。

筆者が委員をさせて頂いた〇〇区の教委では総合型地域スポーツクラブの創設に向けて次のような全体像のもとに、具体的な内容・方法が画かれ、実施に移されつつあります。

- ①地 域：日常生活圏としての地域（徒歩により日常的に生活する社会圏、自転車の利用まで拡大）
- ②核施設：中学校1～2校、小学校2～4校の体育施設や特別教室
- ③マネジメント：クラブ全体の企画運営ができる地



(1) 教科や領域における基礎・基本の総合的活用 → 総合的な学習の時間

(2) 総合的な学習の時間で学んだ探求力や表現力のフィードバック → 教科や領域

## 2. 具体的な取り組み（福祉・健康分科会）

日本社会がさらに高齢化が進んでいくことは否めない事実である。将来を担う子ども達に、自他の健康に関心を持たせ、身体的・社会的に恵まれない人々が満足できるような社会環境を創ろうとする姿勢を育むことが求められている。

そこで、福祉・健康をテーマとして取り上げ、生徒が興味・関心をもった内容について小テーマを設定させ学習することにした。健康については食事や運動、環境、医療などのかかわりから、体育・保健・理科、家庭等の教科との関連を考え、それぞれでも取り上げて学習を深めるようにした。

学習の方法としては、新聞・図書室の本やインターネットで調べる方法、実験または体験することによって学ぶ方法、交流や実地見学によって学ぶ方法等を組み合わせ、最後にレポートや冊子の形にして、総合的な学習の時間の最後の時間と学芸発表会などで発表するようにした。

コースの概要及び生徒が学習した内容は、次の通りである。

①運動と健康：運動が果たす健康人の役割を実証・実験を通して学習する。各自で体力テストを行い、体力の向上に運動が果たす役割について考える。②栄養と健康：食事やいろいろな栄養素と健康の関係について学習する。学習のまとめ段階で、各自が考案した健康食品を作成して試食する。そのほか3つのコース（③高齢者福祉：講演、車椅子体験、ブラインドウォーク体験等、福祉新聞にまとめる。④障害者福祉：養護学校との交流、ふれあい講習会等。⑤移植医療：臓器移植のビデオ、近隣の病院での医療現場実地見学、講話等）を設定して、学年単位で学習した。

## 3. まとめ

○移動期間の2ヶ年、隔週で2時間続きで実施したが、外部へ出での学習の時は午後時間を設定し、放課後の時間を含めて行った。進めるにあたっては地域、保護者の協力が不可欠であり、日常からの交流の大切さが認識された。

○総合的な学習の時間は学習の進め方によって、様々な形態が考えられ、生徒の学習への興味・関心を高め、意欲的に取り組むという成果は得たものの、「学び方を学ぶ」ための基礎・基本となる知識・技能を同時に身につけておくことが必要である。教科・領域の基礎・基本の大切さを痛感している。保健体育では、この時間の確保が課題となる。

## 学校体育と総合的な学習の時間（小学校）

常務理事（東京都荒川区立ひぐらし小学校校長）

後 藤 一 彦



### 1. 体育から“総合”への発信の必要

「単元構成が難しい、学校格差が拡がりそうだがそれでいいか」などが、「総合的な学習の時間」に関する教師の悩みであるとの調査結果があります。

（2001年3月ベネッセ教育研究所調査）

この背景には、「総合的な学習の時間」は、各教科等から離れて、別のことを学ぶ領域であるとの考え方があるように思われます。

確かに、「総合的な学習の時間」は、子どもたち

にとって各教科等で学んだことを生かし、実生活に役立つ学習、学ぶ意味の分る学習となることを趣旨に、新しく編み出された学習領域です。

しかし、「総合的な学習の時間」（以下“総合”と略記）は、もともと各教科等の貴重な時間を割いて産み出された領域です。どんな単元構成にするのか悩むのならば、「先ず“総合”ありき」と考えるよりも、当面は「先ず教科ありき」の考えに立ち、教科等の発展として“総合”を位置づけたり、構

想したりすることも一つの有効策かと考えます。

その上で、“総合”の「ねらい」として「自ら問題を解決する能力」や、「学び方やものの考え方」を身につけるなど、いわゆる「方法知」を重視したり、本校の子どもの伸ばしたい重点は何か、子どもの興味・関心、子どもに何が学習可能かなどに目を向け配慮を加えていけば、単元構成の仕方の重要な視点になると思います。

とすれば、体育科から“総合”につながる内容を発信することは、“総合”と体育科の両者にとって意義あることと考え、以下、書き進めます。

### 2. “総合”への発信の源泉：「体育知」（案）

「体育科」は、学習指導要領に示された「固有の内容」をもった教科です。

しかし、体育やスポーツは、「固有の内容」と言う以上に、極めて多様な意義や価値を内包している文化と呼ぶのがふさわしいように思えます。

例えば、「人々に楽しさや喜び、生きがいを与えること」、「解放感や、いやしをもたらすこと」、「適切に行えば健康の増進や体力の向上に役立つこと」、「人と人とを結びつける働きのあること」、「共にスポーツすることが、地域としての一体感や国際親善、福祉の向上に貢献すること」、「ルールやマナーを守ったり、チームプレーを大切にすること、社会性や倫理観を身につける機会を提供すること」、「絶えず工夫・改善され続けるスポーツのルールや、無尽に開発されるニュースポーツ、次々と誕生するスポーツ組織などの姿は、人間の創造性の発揮や文化発展に体育・スポーツが寄与する姿であること」などです。

また、新しい学習指導要領においても新しい体育が取り入れられ、体育の意義・役割をさらに拡大しつつあることは皆様御承知のとおりです。例えば、(1) 学習内容として「学び方」を取り上げ、その中に大会運営能力の育成も盛り込んでいること。

また、「互いに協力する……」などの人との関わりに関する内容を「態度」の内容として明示する等、豊かなスポーツライフの基礎づくりを目指しています。

(2) 自分の体への気付きや体の調整、仲間との交流などをねらいとした「体ほぐしの運動」を設けました。

(3) 心の健康や、生活習慣病、薬物乱用、喫煙防止、環境、性に関する問題等を取り上げ、健康なライフスタイルの確立を目指します。また、ロールプレイングなどを取り入れ、コミュニケーションスキルを学習内容としています。

以上に述べた内容は、「体育学習における人間性の回復や自立、文化創造、健康の増進及び国際理解等につながる知・徳・体にわたる総合的な学びの内容」であり、「生きる力」そのものと言えますが、これを「体育知」と呼び、体育から“総合”への発信の内容と意欲の源泉と考えたいと思うのです。

### 3. 体育と“総合”の横断的・総合的単元構成の例

上記1と2で述べたように、体育の内容を幅広く総合知、もしくは文化としてとらえると、体育・スポーツそのものが、子どもにとってさまざまな角度からの学びが成り立つ魅力ある“総合”の課題と成り得ますが、ここでは、学習指導要領に“総合”の課題例として示された国際理解、情報、環境、福祉・健康等と体育をつなぐ単元構成例を紹介します。

例① 3年生の“総合”で「世界の食べ物」を調べた子どもたちが、4年生になって運動会の種目を決める際に、世界の国々のダンスに着目し、運動会にふさわしい世界のダンスを調べた結果、フィリピンのダンスのバンブーダンスを選び、自分たちで衣装や動きの工夫に取り組んだ例（体育と“総合”、学校行事をつないだ例、“総合”としての運動会の実践例は比較的多い）。

例② 体育の時に使う運動靴が、1年間に処分される量は、東京ドーム3杯分、片足ずつ並べると地球5周分であることを知ったのをきっかけとして、運動時の靴の働きや、リサイクル工場に行って工程を調べたり、靴底のリサイクル運動に取り組んだ例（環境学習への発展）。

例③ ソフトバレーボールの単元の最後に、ソフトバレーボール大会を開くことにし、隣の学校やPTAのチームの参加も求めて自分たちで大会運営をした例（体育と“総合”、学校行事をつないだ例）。

例④ 福祉をテーマとした“総合”の学習の中で、福祉施設を訪問する時に風船バレーボールを取り入れ、ルールを工夫して高齢者とのふれあいを図った例。

例⑤ 最近、器械運動や体ほぐしの運動、保健などの領域別に、学習のめあてや計画をパソコン画面に入力したり、学習情報を出力したり、仲間とその情報を交換したりする個人用ソフトが開発されています。単元として構成できるだけの学習内容を組織できるかは未だ未確定ですが、体育の学習と情報教育との接点として考えることはできそうです。

## 平成13年度 第2回理事・評議員及び 代表者会議議事録



副理事長 三 原 忠 彦

日 時 平成13年11月7日(水)  
14:00~16:00

会 場 宮崎市 シーガイア2 F ファンテンルーム  
出 席 者 理事・評議員及び都道府県代表者(70名)  
司 会 : 椎木理事長  
記 録 : 三原副理事長

### 会長挨拶(浅田会長)

遠路わざわざお忙しい中をお集まりいただき、ありがとうございます。本年は、文部科学省の改革もありまして、若干、式次第、あるいは内容が表面的には変わっておりますが、実質的には全体会、分科会を通して全く例年と変わりないと思っております。その経緯は後ほど宮崎県の竹村会長からご説明があると思いますが、改革の途中にあって、東京に何度もお出ましを願ひ今日に至っております。皆さんとともに、宮崎県に対して厚くお礼を申し上げたいと思います。本日、先生方にご審議いただく議題は、特にブロック会議と関連をしておりまして、6.「学体連設立50周年記念行事について」、8.「機関誌について」、9.「幼稚園の組織化について」であります。しかし、8、9につきましては、すでに各都道府県の会長宛に本会議のブロック会議ではかる内容として意見をお聞きしました。全国のご希望は本部の方で全て掌握しておりますので、一応その内容だけを申し述べ、「学体連創立50周年記念行事」について先生方のお力添えなり、あるいはお考えをぜひ赤裸々にお聞かせを願ひたいと思っております。何分ともよろしくお願ひをいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

### 開催県代表挨拶(竹村宮崎県会長)

本日の宮崎県は皆様方を歓迎するかのようには青空で迎えることができました。実はこの大会を開くにあたりまして、昨年度、青森大会からいろいろ問題点が出てきておりました。浅田会長をはじめ学体連本部の方々や文部省に何度も足を運びました。今年1月、文部省が文部科学省になり、私たち宮崎県の熱意、学体連の熱意が通じて、協議会と研究大会の

二本立てで大会を開くことができることになりました。問題はこれに止まらず、会場として予定していたシーガイアが経営上の問題から経営者が交代するなど会場確保が危ぶまれる場面もありました。これも全国から来られるであろう皆さんによって出であろう経済波及効果を県にアピールすることで会場を借りることができ、明日の大会を開くことができるという経緯もありました。宮崎県でできることは微々たるものではありませんけれども、宮崎県らしさを出したいと思っております。精一杯頑張りますので、どうかご協力のほどよろしくお願い致します。今回の大会に当たりまして、「学体連」の方々、いろいろとあり難うございました。よろしく願ひ致します。

### 議長選出

規約により浅田会長を議長に選出した。

### 議 事

#### I. 報告事項

【議長】平成13年度第1回理事・評議員会の報告を椎木常務理事お願いします。

#### 1. 平成13年度第1回理事・評議員会の報告(椎木常務理事)

平成13年5月26日(土)、千代田区立神田さくら館で、委任状を含め56名のご参加を得、定数の2/3以上の出席で会が設立したことが報告されました。開会の言葉、会長の挨拶に次いで平成12年度の事業報告、収支決算、平成13年度の事業計画、収支予算等につき了承をいただきました。また、平成13年度の行事であります体育実技研修会、平成17年度以降の全国大会開催県等について協議がなされました。その中で1つのポイントは、全国学校体育研究大会がなくなるのではないかという話が出ましたが、そうではなくて、当時の文部省が文部科学省になり、新しい機構改革に伴っていろいろなものを見直す意味で全国学校研究大会の他に研究協議会をやりたい。そして、今日的な課題の問題についてシンポジウムを開催するというお話でした。結論から言いますと、

平成13年度全国学校体育研究協議会と第40回全国学校体育研究大会を並列にして実施するということになり、内容については皆さんご存じのようなものになったという経過がございます。2つ目は、平成17年度以降の開催県ですが、後ほどそれぞれの担当の方から報告事項として出しますので、ここでは省略致します。以上2点が第1回の理事・評議員会の大きな議題でした。以上で理事・評議員会が無事終了しましたことをご報告いたします。

【議長】ご質問があればお願いしたいと思います。なければ文部科学大臣賞交付の経緯について私の方からご説明をさせていただきます。

#### 2. 文部科学大臣賞交付の経緯について(浅田会長)

文部科学省の新しい編成等で時間がかかり、8月頃には文部科学大臣賞の交付がお願いできるかと期待をしておりましたが、結局だめでした。優勝牌を出すについては11月8日前、2ヶ月間をとらないと牌ができません。待てる時間は9月10日と常務理事会で決め、その日限を過ぎれば今年はだめであろうと各都道府県の会長さん宛にご通知申し上げたわけです。それを出した数日後、スポーツ青少年局企画体育課の方から電話がありまして、とにかく今年中に間に合わせる旨の連絡がありました。急遽、20日にもう1回各都道府県の会長宛にご通知を申し上げたわけでありました。そして、10月1日、下付の許可をいただきました。10月20日(土)、審査委員会を開きまして今日に至りました。文部科学大臣賞は各県から1校だけご推薦を願ひ全部で31校集まりました。その31校について文部省所管、大学の教授職を合わせた十数人で審査をし、7校が決まったわけでありました。小学校が4校、中学校が2校、高等学校1校計7校となりました。もちろん、これは最初の年でもありますし、書類の送付法、あるいは依頼の内容もまだ十分なことができておりませんでした。これは来年度にかけてもっと十分な資料をお願いしたいというふうに考えております。そして、できるだけ多くの学校に対して文部科学大臣賞をおとり願ひようにして努力をしたいと思います。以上がだいたいの経緯でございますが、何か先生方の方でご質問があればお答えをしたいと思います。なければその次にまいりまして、優良校と功労者の表彰について椎木常務理事に願ひたいと思います。

#### 3. 優良校と功労者表彰について(椎木常務理事)

今年度の優良校、功労者の推薦にあたりましては、各都道府県の推薦委員会を通してご推薦いただき、ありがとうございます。平成13年7月21日に中央審査会を開き、優良校129校、功労者153名の方に賞を出すということになりましたので、ご報告いたします。表彰式については、全体会の後閉会式終了後にやらざるを得ないという状況になったのですが、そ

ういう時間帯にも拘わらず優良校は88校、また、功労者の方については90名のご出席を得ることができてまして、大変喜んでおります。以上、優良校と功労者の表彰につきましてご報告を致します。

【議長】優良校、功労者の表彰について推薦を願ひました各都道府県の推薦委員会の方々には、厚くお礼を申し上げたいと思います。次、体育実技研修会を後藤常務理事願ひます。

#### 4. 体育実技研修会(後藤常務理事)

幼稚園の部は参加者が都内から42名、都外から35名、2日で延べ130名ございました。小学校の部は、参加者が2日間で延べ248名ございました。小学校の部会では北は北海道から南は大部分県、宮崎県にわたるまで大変広範な県からご参加をいただいております。このように、都内で実施する関係上、都内からの参加者が多いことは否めませんが、毎年の、他の道府県からの参加者が増えております。大変ありがたい、また意義があることと思っております。皆さんの中からぜひ来年はわが県で主管したいというお声が上がれば、それは非常にありがたいと思っておりますし、意義のあることだと思っております。また、どうぞ後ほど意見をお寄せいただきたいというふうに思っております。中学校・高等学校の部は12月1日に実施されます。種目はアルティメットといい、フリスビーを使ってラグビー的に楽しむゲームのようでございます。ぜひ、実技を通して全国の先生に知っていただけたらあり難いと思っております。なお、開催の通知、案内の方法については、各県支部を通じて各学校に配布する方法がなかなかうまくいかないの、体育関係の雑誌等を通じて情報を発信しております。以上、実技研修についての報告とご説明をさせていただきました。

【議長】ではその次、学体連会報について森常務理事願ひいたします。

#### 5. 学体連会報について(森常務理事)

平成13年6月10日付けで学体連会報、第38号を発行いたしました。例年より20日ほど早く発行でき、これもひとえに先生方の迅速な役員一覧のご報告の成果だと思っております。今後も原稿依頼をいたすことがございますので、よろしく願ひいたします。

【議長】次の学体連設立50周年記念行事について金森副会長に願ひたいと思います。

#### 6. 学体連設立50周年記念行事について(金森副会長)

学体連は、昭和25年に学校体育指導者連盟として発足し、昭和38年に現在の日本学校体育研究連合会と名称を変更して今日に至っております。来年、北海道大会においてちょうど満50年になります。北海道の方々には大変ご迷惑をおかけすると思いますが、現在、学体連本部では50周年の記念式典、祝賀会、

50周年の記念誌の発行を確定しております。その他について今後検討するとして、この3つは実行したいと思っております。学体連の本部では特別委員会を設置し検討をいただいております。記念誌につきましては、学体連として半世紀に至りました機会にまとまった資料としてきちんとしたものを作成しようという、浅田会長の強いご意思で、すでに各都道府県に原稿のご依頼をしているところです。今後また、原稿をご依頼申し上げる場合もあると思いますので、その節にはどうか協力をいただきたいと思います。次は、記念式典、祝賀会ですが、派手にならず地道に実のあるものにしていきたいと委員会で話し合っております。しかし、記念誌の発行、式典、祝賀会など費用がかかります。第1回の理事・評議員会の会計報告でもいかに本連合会が財政面で窮屈かというお話を申し上げました。50周年の諸行事を行うことにつきましては、どうしても皆さん方から募金、寄付等を頂戴しなければ諸行事ができません。募金については2つに分けて、1つは団体、いわゆる学校単位、それと個人です。個人といいますが、毎年、功労者表彰をいたしておりますが、功労者の方々には賛助会員になっていただいております。そういう方々に改めて募金の通知を申し上げまして、ご協力を願う。あと、特別賛助会員になっていただいて毎年貴重な賛助会費をいただいております企業、団体、これは本部の方で直接ご依頼を申し上げます。そのように思っております。

さて、お手元の募金についてのプリントですが、最初の頁は各都道府県に絶大なご協力をいただきたいという趣旨のものです。あくまでも47都道府県の各県独自に何とか募金の活動をしていただく。そして、本部の方にご協力いただきたい。ここに書いてあります通り、募金の方法、それは各都道府県の会長さんにご一任いただきたい。それぞれ都道府県のご事情もあると思いますので、各都道府県独自にいろいろお考えいただきまして、募金をしていただければあり難い、そういう趣旨でございます。募金の期限、本部に納入していただく期限はここに書いてあります通りです。その他といたしまして、先ほど申し上げました記念誌を作成しますが、5,000円を単位としまして、例えば10万円であれば20冊を贈呈するという意味でございます。それから、②としましては、例えば100万円募金をしていただいた都道府県につきましては、その1割、10万円を募金協力金として還元申し上げます。それを各都道府県の学体連の体育活動の基金にしていきたいと思います。各都道府県会長殿と書いてありますのは、そういう意味でございます。次の頁には、これはあくまでも参考例ですが、各都道府県で募金をしていただくにつきまして、最初に申し上げました本学体連の歴史的なこと、

そういうことを書いてみました。あと、いろいろ募金の方法などにつきまして各都道府県で独自のお考えで募金に協力していただければと、一応、参考ということで添付させていただきました。

最後の頁は、先ほど申し上げた学体連本部で個人対象としてこうした文章を作成し、過去の功労者の方々、賛助会員になっておいでになるの方々、そういう方々に直接本部からご依頼申し上げる。そういう意味でございます。時間の関係で説明が不十分かと思いますが、ご質問を受けたいと思います。このあとで行なわれますブロック会議でさらにいい案がございましたら是非お聞かせいただきたいと思ひます。

【議長】ご質問がございましたらお聞かせ願ひたいと思ひます。

（岐阜県）各都道府県の意見をお聞きになった上で内容でしょうか。上で決められるのは結構ですが、われわれ一都道府県として割当制みたいな形で出てくると、非常に苦しい。学体連の事情はわかりますが、私どもの県の方では、会を維持することが不可能に近い状況にあるのに、県会長一任というのは非常に苦しいと思いますが、いかがでしょう。

（金森副会長）私の説明不十分でした。各都道府県で幾らという割り当てはしてありません。強制ではないというまた言葉上非常に困るわけですが、できるだけご協力いただきたい。各都道府県のご事情も十分わかります。各都道府県で極力できる状態のところは是非ご協力いただきたい。できないところはいいいですよという意味ではございません。何とか学体連全体のことをお考えいただき、ご協力願ひればあり難い、そういう意味でございます。

（岐阜県）協力は十分したいと思いますが、これは私どもの県だけではないと思うのです。学校で負担することは額が5,000円でもできないわけです。PTA等の会費を使うことは不可能だと思います。会長に一任されても、私、会長として非常に苦しいという思いがするものですから。機関誌の問題も含めていろいろ割り当てられても出しどころがない。個人で体育の先生方がするということであれば、これは出せると思いますが、個人が賛同しないとできないという状況だと思いますので、その点、お含みいただきたいと思ひます。

（金森副会長）私も公立と私立両方に勤務しておりましたから今先生がおっしゃったことは十分わかっております。各都道府県で何とかお知恵を出していただいて、この際、この50周年をやり遂げたいと思ひております。ご事情は十分わかっております。ただ説明が不十分で各学校に出させるという、これは今おっしゃった通りで、特に公立の場合は非常に難しいということは承知しております。そういうことですのでよろしいでしょうか。

【議長】その他にございませんでしょうか。はい、どうぞ。

（大阪府）大阪の石黒です。この話は第1回の理事会の時に聞いておりますから、ある意味では賛同できる部分があると私は思っております。ただ、大変荒っぽい進め方ではないかと私自身は思っております。概算でいいから本部会計ではこれぐらい支出はできます。残としてはこれぐらいは協力金でまかないたいというぐらゐをお示し願ひなければ話は進まないと思ひております。以上です。

（金森副会長）ごもっともです。しかし、どの程度お金が集まるかわかりませんので予算の立てようがない。わが財団法人の学体連は赤字を出したらつぶれます。第1回の理事会でご報告申し上げた通り、特別会計は約3千万あります。これは50周年等に備えて毎年、毎年微々たるものですが積み立ててきたものでございます。しかし、毎年、非常に苦しい財政で学校体育研究連合会は運営されておりますので、それをあてにしますとお金の面であと何年もつかかわからない。そういう状態で企業からの賛助会費も今の社会情勢から考えてほとんどいただけないことは皆さんご承知の通りです。そうは言っても予算がなければおかしいじゃないと言われるのもわかりますので、来年度の第1回の理事・評議員会にはある程度の目安を立てて出していききたい、私個人としてはそう考えております。

【議長】いただきましたご意見は、後に続きますブロック会議で再度販売促進等についてご審議をいただこうと存じましたが、今ご報告させていただきましたように種々情勢の変化がございまして、ブロック会議でこの議題は先ほど会長からお話がありましたように、今日は割愛させていただきますと思ひております。以上で報告を終らせていただきます。

7. 平成17年度以降の全国大会について（三原常務理事）

この件につきましては、開催基準要項にある通り、ブロック内の輪番制を原則として決定をしてきております。今後の予定として14年度が北海道、以下順に15年度三重県、16年度徳島県となっております。そして、17年度以降につきましては、富山県が開催に向け努力中でほぼ内定しております。18年度は開催予定の京都府がインターハイと重なるため、年度変更の希望が出ておりますが、本部としては予定通り開催に向けて努力してほしいと申し上げております。同じくその席で19年度開催予定の中国地区では島根県と山口県で話し合いの上決定したい旨報告がありましたが、その後、広島県も含めて協議をしていくという方向が出されているとうかがっております。20年度は岩手県が昨年の第2回理事・評議員会において報告されております。21年度につきましては、栃木県が候補となっています。22年度は九州地区でして、福岡県、佐賀県が話し合っており18年度までに決めていくとされております。以上です。

【議長】京都の件に関してはブロック会議のところまで近畿でどうするか話をじっくり練ってもらいたいと思います。次に機関誌について友添常務理事願ひたいと思ひます。

8. 機関誌について（友添常務理事）

現在、明年1月号の編集の最終段階ですが販売の方が思わしくございません。そこで過日、機関誌の購読を促進する上で問題点と、アイデアをおうかがいするために各支部宛アンケートをお願いし、貴重なご意見をいただきました。編集広報委員を通してのパンフレットの郵送配布、あるいは本部主催の実技講習会での広報と機関誌の配布、あるいは東京地区での研究会での機関誌の配布等、すでに本部段階ではあらゆる手を尽くしておりますが、残念ながらほとんど効果がありません。その主な理由は、先生方が本を読まないということに尽きるかと思ひます。ほとんどの支部では現在の情勢から判断して機関誌購入のための予算化はもう不可能であるというご回答をいただきました。現状を申しますと、ほぼ平均して毎月200冊、4月から数えるとおよそ1,300冊程度の減少で、発行元の日本体育社からは発行の維持継続は困難であるとの申し出を受けております。本部の常務理事会では機関誌の継続発行のため、幾つかの大手の出版社を打診、交渉を重ねているところでございます。4月以降、休刊せざるを得ない状況も含めまして現在検討をいたしております。ブロック会議で再度販売促進等についてご審議をいただこうと存じましたが、今ご報告させていただきましたように種々情勢の変化がございまして、ブロック会議でこの議題は先ほど会長からお話がありましたように、今日は割愛させていただきますと思ひております。以上で報告を終らせていただきます。

【議長】ご質問があればお願ひしたいと思ひますが、なければその次の幼稚園の組織化について後藤常務理事、お願ひします。

9. 幼稚園の組織化について（後藤常務理事）

幼稚園の組織化についてはアンケートにご回答いただき誠にあり難うございました。幼稚園部会の立ち上げの意義、あるいは幼稚園教育における運動遊びの意義については、平成12年の6月30日付けの会報37号で本会の浅田会長が申し上げている通りでございます。しかし、残念ながら体力がないために組織が立ち上がっていないのが現状でございます。例えば、幼稚園要領そのものに体育という領域がないこと、幼稚園の運営態勢そのものが極めて小規模化しており、幼稚園の先生が小・中と比べて少ないこと。幼稚園の特色づくりで音楽を教える、漢字を教えることが保護者のニーズに合った幼稚園であるということから、公立幼稚園がなかなか存在しきれなくなっている情勢もあります。そのような事情があっ

て幼稚園の組織の中に運動遊びに関わる組織が立ち上がっていない。幼稚園の協会すらも立ち上がっていない県というのは沢山あります。そういう現状に対して少なくとも小・中・高・大学の先生方と幼稚園の先生との協力関係は結べるのではないかとご意見いただきました。普段から協力関係を結んでいくことが例えば県で全国大会を開催するという場合に大事になってくるのではないかと。諦めてはいけないというご意見もいただきました。事実、全国大会開催のために準備しているM県では、必死の話し合いを通じて、私立の幼稚園ではあるけれども、幼稚園の協会が、このたび県の学体連に加盟したというご報告をいただいております。この県では県の大学の先生が幼・小・中・高とのつながりを非常に大事になさって、音頭取りをしてくださるという、そういった地道な努力の大事さということを、改めて感じるわけでございます。幼稚園の実情から、無理だということで全くこれに触れずに風化させてしまっているのではなくて、幼児教育における運動遊びの大事さというものを私どもは本当に感じるならば、少しずつ地道な努力を続けていくことが今一番大事なのかなと思っているところでございます。アンケートの概要と私どもの考えをご紹介させていただきます。ご審議よろしくお願い致します。

【議長】幼稚園の組織化の問題にせよ、機関誌の問題にせよ、これまでは何回かこの理事・評議員会にもおはかりしてご意見を承ってきたわけであり、とにかく立ち上げだけは幼稚園は50周年記念の行事の1つとしてもぜひやりたいと考えております。これは幾つでもいいと思うのです。とにかくできるところから出発するというので、これまで20数年間、全国大会だけでもとにかく幼稚園部会というところで公開授業もやっていただいているわけですし、何かそれをバックにしていこうという幼稚園部会のようなものができないかというふうに考えておりますので、何分とも先生方のご支援をお願いしたいと思います。

【司会】ここで20分間の休憩に入ります。

休憩時間を利用して、議長から特別賛助会員が紹介され、会員（児島株式会社、協和株式会社、学習研究社、大塚製薬株式会社、教育シューズ振興会、第一学習社、株式会社インタープレス、日本教育シューズ協議会）の代表者から挨拶がありました。

## II. ブロック会議の要約（森常務理事）

ブロック会議は、例年のように各地区に分かれて30分の話し合いのあと、「まとめ」の報告がなされました。要約いたしますと、①50周年記念行事の募

金を学校単位で行うことは各支部とも「無理」「難しい」ということ、また、依頼文を支部会長名で出すことも「難しい」「効果がない」「出すなら本部会長名と連名で」などの意見が大勢を占めました。②平成17年度以降の大会については、第1回理事・評議員会での内容以上には進展をみることは出来ませんでした。

【議長】どうもいろいろあり難うございました。次期開催県の準備状況、それについて北海道の宮崎理事、お願いしたいと思います。

## III. 次期開催県の準備状況（北海道宮崎理事）

平成12年の9月に準備委員会を、平成13年6月に実行委員会を発足しました。研究主題「はすむ心と体、ともに高めあう体育活動」、これに向かっての提案を致したいと思っております。開催期間は10月17日、18日の両日。会場につきましては全体会は平成2年に行なった市民会館で再度行ないたいと考えております。研究につきましては幼稚園1園、小学校が4校、中学校が3校、高校が2校、そして養護学校が1校と、5校種11分科会で提言したいと考えております。日程につきましては今回の大会と同様に考えておりますが、表彰式につきましては現在のところ未定のため、第二次案内で決定した段階でこれに載せていきたいと考えております。皆様へお願いなのですが、先ほども出ておりますように、今一番の悩みはお金です。緊縮財政ということで役所の協賛いただけたところも本当に厳しい状況になっております。ですから、私どもの考えておりますことは、華美にならず、質素に行いたいと思っております。そのへんをご理解いただき、沢山ご参加いただきまして何とかカバーしていただけたらと、思っております。お待ちしておりますので、よろしくお願い致します。

【議長】長時間にわたりまして本当に真剣にご討議をいただきあり難うございました。

【司会】それでは最後に閉会のご挨拶を深川副会長から申し上げます。

## 閉会の挨拶（深川副会長）

皆様には長時間ご討議いただきましてあり難うございました。また、ブロック会議では貴重なご意見をたくさんいただきあり難うございました。皆様方におかれましては、今後とも学体連について大所高所からご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。誠にあり難うございました。

# 第40回全国学校体育研究大会基調報告（要旨）

宮崎県実行委員会研究部

部 長 木 下 理



## 研究主題設定の理由及び研究の方針

皆様こんにちは。全国各地より、ここ宮崎の地にお集まり頂きまして心より歓迎を申し上げます。

本県の基調提案ということで研究部の基本的な考え方という形でご説明をさせていただきます。

研究部では本研究大会の研究主題「仲間と一緒に夢中になって取り組む運動遊び・体育学習」を導き出すための柱として「宮崎県の体育授業のどこが問題なのか、これから我々は宮崎県の子供達をどんなふうに育てていこうとしたのか」という視点から、幼稚園・小学校・中学校・高等学校、特殊教育諸学校の研究部の先生方に、今問題とすることは何だろうかという問いかけをしながらスタート致しました。

そこでキーワードとなる言葉として「仲間と一緒に」と「夢中になって」が出てきたわけですが、この2点は今、我々が体育授業を実践している問題点は何なんだろう、他の教科から見たときに体育の授業というのは一体どんなふうに見られているのか、これにも敢えて我々は批判を受けながら自分達の体育授業のあるべき姿を目指していきたいというふうに考えてきました。

基本的には楽しい体育の考え方が現在進められておりますので、我々もその考え方を踏襲していきながら、その中で今までの体育授業の在り方で変えなくてはいけないところ、変えてはいけないところ、これをきちんと出していこうではないかということ、基本的なスタンスとして考えて参りました。

宮崎県では昭和34年から県学校体育研究発表大会を継続してきております。昭和51年には「小学校・中学校・高等学校のつながりある学習」ということで、全ての先生方で色々な校種の授業をまず見てみようという大会のシステムを作りあげました。

自分の校種のところだけ考えていくのではなくて小学校ではどんな授業をしている、中学校はこういう授業をしているのか、高等学校では更にこんなふうに発展して授業が進んでいくのかというのを全員で1会場で授業を見ていこうと、そして2日目の分科会での考え方を受けて分科会の提案授業を行うようにしています。

その基本的な考え方を受けて幼稚園部会・特殊教育諸学校部会も取り込んで参りました。小学校・中学校・高等学校のつながりある学習の考え方には、うまくマッチしない部分も出て参りましたので、幼

稚園部会と特殊教育諸学校部会に関しては出来る範囲の考え方をつながりある学習の中に生かしていくという形の提案授業を行うことになりました。

## 研究の構想

我々小学校・中学校・高等学校のつながりある学習の中で、研究内容として3つの柱を立てました。

1つ目に「運動への関わり方」

2つ目に「運動の学び方」

3つ目に「工夫されたカリキュラムの編成」

この3つを研究内容として、研究の仮説としては仲間との関係を豊かにしていきたいということと、運動する喜びを味わえるような教師の関わり方を積極的に工夫をしていきたい、そうすれば生きる力の基礎となるたくましい体や学び方を高めることが出来るのではないだろうか、という考え方を持っております。

## 研究の実際

めざす授業づくりの基本的な考え方としては、今までの授業のどこに問題があるのかを探って、どこを改善しようとするのか、ここが大きな問題になりました。

先ず、本県では体育科における基礎・基本の考え方を明確にしていこうではないかと、体育の授業で何を教えていけばいいのか、子供達にどんな力を身につけさせていけばいいのか、それを考えた時に来年度から新学習指導要領が行われていきますが、やはり宮崎ではこの基礎・基本をしっかり子供達に身につけさせていこうと、小学校・中学校・高等学校、学習指導案の中にもそれを盛り込んでいこう、一人一人の体育教師が子供達に身につけさせるものをきちんと整理していこうと考えました。

宮崎が考える基礎・基本とは、学習指導要領から体育科における目標として提示されているものですが、各領域に示された内容「技能の内容」「態度の内容」「学び方の内容」これを教師がきっちり関わっていこうとした。研究部会の中でも、今までの体育学習に対する色々な批判、放任になってはいないか、子供達にやらせっぱなしになってはいないかと、例えば「中学校・高等学校の選択制授業においては、選択はしているけれども子供達はただ運動しているだけで、どんな力が身につけているのかみえない。他教科の先生方もグラウンドで子供達は動き回ってはいるが、どんな体育の学力が身につけてい

るのかみえない」と。そこで宮崎ではこの3つの観点を基礎・基本としてしっかり教師が分析をした上で、子供達に身につけていきたい力として提示することにしました。

その時に基本的なスタンスとしては教えるべきことはやはりきちんと教えていこうと、体育の授業として教えなければいけないことはきちんと教えようと、しかしそれが一方的に教え過ぎないようにしていこうと、ここは非常に難しいバランスがございましたが、そのために我々体育教師の授業づくりの考え方が問われるのではないかと思います。分科会で授業提案を行います、この基本的なスタンスを受けて授業作りをしていきましたけれども、まだまだ充分とはいえないだろうと思いますが、先生方の色々な意見を伺いながら本当の体育の授業づくりを目指した研究になればと考えております。

続いて「体育学習におけるめざす児童生徒の姿」ですが、構造図の中にもありましたが、宮崎では3つのめざす児童生徒の姿を考えております。

技能・態度・学び方の3点から宮崎のめざす児童生徒の姿を導きだしてみました。

続きまして研究内容の2つ目の「運動への関わり方」について述べていきたいと思いますが、今体育の授業の中で子供達の関わりというのがクローズアップされております。宮崎でも子供同士の関わりはどんなだろうか、子供と運動の関わりはどんなだろうか、それを取り巻く教師と子供と運動の関わりはどんなだろうか、ということの研究して参りましたが、自己・仲間・ものという考え方から構想図をここに書いているように三角形の構想図、3つの要素の関わりということ提示してみました。

ここでは自己・仲間・ものという3つの要素の関係はお互いを結んだ3本の線という考え方はなく、平面としての三角形、これが徐々に大きく形を変えながら広がっていく。そういうことを基本的に考えております。子供達は運動の特性に触れながら色々な関わり方を学習していきながら育っていきます。この構想図から考えることは子供の中で自己・仲間・ものそれぞれが自分の中で意味生成されながら体育の学習だけではなく、日常生活の中で生きて働く力になってくれればいいなあという願いをもっております。

続きまして「学び方」の捉え方を書いてございますが、本県では従来の学習の学びのプロセスを踏襲していきながら深めていくにはどうしたらいいのか、特にめあて学習・問題解決的な学習の中で子供達の学びの姿をどのように深めていくかを考えてみました。

学びの姿の目安となる表を作成してみました。これを小学校・中学校・高等学校の中でより使い易いものとして工夫していこうとしました。基本的な考え方はこの表に書いてございますが、これはあくまでも児童生徒一人一人の学びの姿を掴むための目安にするものであって、これをステップとして考えて

いくことではございません。あくまでも我々指導者は子供達の学びの姿を高めていながら、それをどのように掴んでいくのか解釈していくのか、ここは大きなポイントになるのではないのでしょうか。

「カリキュラム編成の工夫」ですが、なぜこのカリキュラム編成の工夫なのか、これは今まで宮崎県の学体研でも絶えず話題になってきたことですが、他の校種のことがわからないで、自分の校種の体育授業づくりのことだけを考えてやってしまっているのか、これがずっと懸案事項でございました。そこで、今回、全国学体研を迎えるに当たっても、それぞれの校種でそれぞれの校種の年間計画、カリキュラムの考え方をお互いに取り寄せてみようではないかと、取り寄せてみてそれを参考にして自分の校種の年間計画作り、体育のカリキュラム作りを工夫してみようと思いました。完全ではございませんが、今まで他の校種のどのような領域・どのような種目・どんな体育の授業づくりの考え方で子供達が上がってくるのか、小学校から中学校へ中学校から高校へ進んでいくのかそれを見ながら自分の校種の授業づくりだけに止まっていたものを何とか広げたいということで、このつながりある学習として小学校ではこういう体育の考え方で授業を作っていること、こんな授業を通して小学校ではこういう子供達を育てようと思っているというのを中学校にあげました。それを知った上でそれでは中学校ではこんな体育の授業を通してこんな子供達を育ていきたいと、育てようというところを高校にあげました。こういうつながりを何とか作っていくことが今回のカリキュラム編成の工夫でございます。

カリキュラム編成の工夫と大きな題名で打ってございますが、まだまだ内容的には不十分でございます。この大会を通じて先生方の意見等も聞きながら我々が目指すべきカリキュラム編成の工夫というのはどういうものなのか、これを考えていきたいと思っております。

最後になりましたが、仲間と一緒に夢中になって取り組む運動遊び体育学習を幼稚園部会から小学校・中学校・高等学校・特殊教育諸学校で明日提案を致します。子供達が生き生きと体育学習に取り組む姿、それを「夢中になって」と表現しております。そのためには体育の指導者が夢中にならないといけないと、体育の指導者も仲間になることも必要だということを考えております。

明日の分科会で子供達の生き生きとした姿がみられれば嬉しいと思います。そして同時に授業者の目や言葉や関わりが生き生きとしているか、夢中になっているか、その点もご覧になって下さい。分科会場ではよい授業を提案したいと頑張ってやって参りました。是非多くの意見を頂いて宮崎そしてこれからの全ての県での体育授業、もっともっと体育の授業を良くしたいという先生方の熱意で、明日の研究協議に熱い思いで参加して頂くと我々もやった甲斐がございます。

## — 分科会会場 参観記 —

### 第1分科会 <会長 浅田 隆夫>

ひかり幼稚園 主任 菊田 恭子

研究主題「先生や友達と一緒に動く楽しさを味わう運動遊び」

・公開保育Ⅰ「からくり屋敷忍者修業」年中少ゆり組  
ゆり組からホールまで続く廊下のあちこちに子どもたち手作りの忍者の旗が立てられており、一体何が始まるのだろうかドキドキしながらホールの中へ入った。

しばらくすると、これまた手作りの衣装を身にまとったチビッコ忍者たちが、抜き足、差し足で静かに忍び込んできた。参観している大勢の教師たちを、すべて忍者学校の先生たちと信じて疑わない子どもたちは、全く気をとられることなく集中して修業を始めた。跳び箱、マット、平均台、巧技台……すべて忍者の大切な修業道具として子どもたちの目に写っている。転がったり、跳んだり、くぐったり、跳ねたりしながら修業は進んでいった。現実と空想の世界を自由に行き来できる幼児期だからこそ、このように変身して何かになりきって夢中で全身を使って遊びを広げているのだ。

今しか出来ない遊びを大切にしていきたいと強く感じた。

・公開保育Ⅱ「ボールをつかって宝島を守ろう」

年長ばら組

子どもたちの姿から、いつも友達のようにボールに親しみ、色々なことを長期間にわたって試してきたことが伝わってきた。ボールの色々な動きを発見したり、投げる楽しさや受けるおもしろさを感じている子どもが多いのにも驚かされた。ボールを使って、色々なゲームを工夫して考え、遊びを広げていく教師と子どもたちの信頼関係がきちんと出来上がっていることがこの参観を通してしっかりと学べたように思う。

住吉幼稚園の公開保育を見て、教師は常に子どもたちの発想や声を大事に受け止め、子どもたちに寄り添いながら、遊びを発展させていく仕掛け人であればいけないことを痛感した。生きる力の育成を考えるときに「心とからだの健康」をもっともっと大切にしていきたい。

・集中力、持続力、そして、意欲が何よりも育つのが運動遊びなのだから……。

この園の子

もたちの未来が、今から楽しみで



<第1分科会>

注) 本文は、菊田恭子先生が執筆されました。編集子

### 第2分科会 <常務理事 後藤 一彦>

宮崎市立榎小学校 校長 川邊 隆三

研究主題「自ら学び、磨き合う体育学習」

— ゲーム・ボール運動を通して —

本校は、これまでも、自己教育力の育成を目指して、「自ら学び、磨き合う児童の育成」に取り組んできています。

その土台に立って、体育学習における「心と体を一体としてとらえる観点」や、「運動の学び方を重視する視点」を踏まえ、表記研究主題を掲げて授業改善に努めている。

主題に迫るため、次の4つの研究の視点・方策を明確にした研究・実践の展開であった。

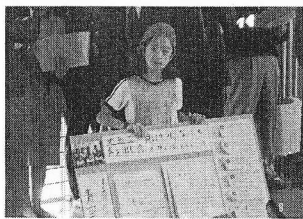
視点① 運動の楽しさを味わいながら、学び方を身に付けるゲーム・ボール運動の授業づくり

【具体的な方策】：運動の学び方の具体的な内容項目を縦軸にとり、低・中・高学年の発達段階を横軸にした「運動の学び方のめやす表」を作成し個性に応じたきめ細かな「学び方」の育成指導が行われていた。

視点② 自他とのかかわりを広げ深める場の設定や手立ての工夫

【具体的な方策】：

人とかかわりを「認め合い・教え合い・励まし合い」の3つの要素でおさえ、



<第2分科会>

これを縦軸にとり、低・中・高学年の発達段階を横軸とした「かかわりに関する具体的子ども像」を設定し、ゲストティーチャーの力も借りて形成評価に努め、磨き合う力の育成が丁寧に行われていた。

視点③ 学び方と磨き合いに着目した年間指導計画の作成と実践

〔具体的な方策〕：次の3点に配慮した年間指導計

#### 第4分科会

宮崎県立本郷小学校 教諭 中川 恵子

研究授業Ⅰの2年生の体育「2年3組元気パークをつくろう」では、体育館いっぱいに用意された器械・器具をグループ別にいろいろと組み合わせ、楽しめそうな公園を作ることから活動が始まった。子ども達は、力を合わせて大きな器械・器具を動かしてグループ独自の公園を造りあげていたが、その中に「転がる」「走る」「跳ぶ」「力試しをする」などの様々な運動ができるようになっていた。

3年生全体での総合的な学習の時間「元気のもとをゲットしよう」では、保健学習で生じた興味・関心を発展させた内容で教師以外に養護教諭などのそれぞれ専門的な協力者を交えての活動で、発表する子も聞いている子も生き生きとしていた。

研究授業Ⅱの4年生の体育「ドリブルシュートゲー

画を作成した。

ア. ゲーム・ボール運動における課題解決的な学習が可能な時間配当

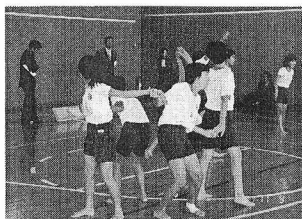
イ. 低・中・高学年での選択学習における系統性を考慮した教材配当

ウ. 体育的行事におけるかかわりを重視した種目等の見直し

ム」では、チームの友だちと4年生なりの作戦を話し合い、協力しながらゲームを楽しんでいた。

6年生の体育「力の限りLet's Go!」では、男女仲よくいろいろな動きを出し合い、表したいものを工夫して精一杯踊ったり、他のグループと発表しあったりして表現活動を楽しんでいた。

どの授業も子ども一人一人が主体的に活動し、満足感を得ていたと思う。その中には教師の理論的な指導と細かな準備を感じることができた。



< 第4分科会 >

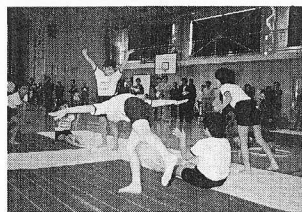
#### 第5分科会

都城市小学校体育連盟 理事長 栗野 慶一郎  
研究主題「自ら学び、考え、行動する『生きる力』をはぐくむ学習活動の創造」

大淀小学校は平成12年度より「なかよく」「かしこく」「元気よく」をスローガンとし、①カリキュラム編成の工夫 ②仲間とのかかわりを重視した単元構成及び学習過程の工夫 ③主体的な学習を促すための課題意識のもたせ方の工夫を視点に研究を進められてきた。

公開授業 第4学年の「みんなで楽しくマット運動（器械運動）」では、仲間との集団技でのふれあい“エンジョイタイム”と仲間との個人技の磨き合い“チャレンジタイム”を設定し、仲間とのかかわりを大切にしたため学習が展開された。第6学年の「仲間といっしょに『大淀ボール』を創り、

楽しもう！（ニュースポーツ）」では、グループの仲間とオリジナルなボールゲームを創造していく過程において仲間とのかかわりを大切にしながら、自分たちによる学習の運営でゲームを楽しむ活動が進められていた。今後は、領域の系統性を考慮した各学年における単元内容構成、モジュール方式の考え方を取り入れることができる教育計画、ニュースポーツに関する教材研究・教材開発の推進と年間指導計画への位置づけ等が進められていくであろう。



< 第5分科会 >

#### 第6分科会 <常務理事 三原 忠彦>

宮崎市立大宮中学校 校長 中 利幸

本校は周辺に緑豊かな公園や神社の社、そして博物館・図書館・芸術劇場等があり、自然・学術・芸術を兼ね備えた環境に立地する。

9学級673名の中規模校で、柔道の井上康生選手の出身校としての誇りを持ち、落ち着きと活力のある中学校である。

平成10年度から12年度にかけて、小・中・高における体育授業の「つながり」について模索してきた。こうしたなか、小・中・高の連携を通して「仲間とのかかわり合いのなかで学び方を学び、生涯スポーツにつながる体育学習はどうあればよいか」という研究主題を設定した。また、研究主題の視点として、①カリキュラム編成の工夫 ②小・中・高における学び方のスムーズなつながりは ③仲間とのかかわりの中での問題解決的な学習の実践、を項目として研究を進めた。

公開授業の実際には、1学年及び3学年のそれぞれ3クラスが「バレーボール」「ハンドボール」「サッカー」について学習したが、1学年は学級単位で、3学年は選択球技として行った。余裕のある校庭にハンド、サッカー各2面が用意され、また体育館のバレーコートもバドミントンコートを活用した6面

（1学年・3学年は3面）で行われて、運動量とボールに触れる機会の多さが目についた。

学習のめあても『仲間とのかかわり合いを深める』『個人やチームの課題に応じた練習等を工夫する』『ゲームを楽しむ』とした。

実際に各授業で行われた男女共習の形は、とくに「ハンドボール」「サッカー」ではその体力差・スピード差からくる活動の難しさを感じさせたが、敢えて承知の上での意図的取り組みということであった。仲間との関わり方の研究、より楽しいものとなるための工夫の仕方への挑戦と受け止めた。

午後からの研究協議会は、大勢の関係者参加のなかで、授業を担当した3人の先生の意欲的かつ謙虚な発表、指導助言者の的確な指摘・指導、参観者の建設的な意見発言と大いに盛り上がり価値ある協議会となった。

数年に亘って取り組んできた多くの関係者のご苦勞に敬意を表したい。



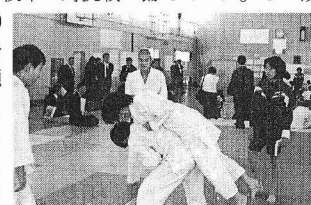
< 第6分科会 >

#### 第7分科会

前宮崎市立東大宮中学校 教諭 西田 雅彦

中学校部会研究主題「主体的に運動に親しみ、仲間とともに学び合う体育学習」のもと、第7分科会では研究主題を「仲間とのかかわりの中で、運動の楽しさ・喜びを深める体育学習」とし、公開授業、研究発表・研究協議が行われた。研究の視点として、①新学習指導要領に基づく、小・中・高のつながりを意識したカリキュラムの編成の工夫 ②豊かな人間性を育み、生涯スポーツにつながる「かかわり方」の工夫 ③主体的に学ぶための「学び方」の工夫をかねて、生徒の思いや願いを授業に反映させ、充実した授業を展開できるよう研究に取り組んできた。本校のカリキュラムの考え方で特徴的なことは、選択制授業のねらいである①運動の楽しさや喜びをより深く味わわせること ②能力や適性に合った運動の行い方や楽しみ方を計画的に工夫することを十分に達成すること及び基礎・基本の徹底を充実させることをめざして、1単位時間を100分で実施していることである。当日は、第3学年の武道（柔道）・

ダンス・球技（ソフトテニス）の領域選択の授業を100分間で公開した。柔道では、前半5チームがそれぞれチームごとに、後半の団体戦に向けてVTR等も活用しながら練習を行い、その後リーグ戦を行った。ダンスでは前半にはこれまでグループで創りあげてきた作品の最後の踊り込みを行い、後半に全体で発表会を行った。柔道・ダンスどちらの授業でも、男女混成のグループ編成がしてあり、活動の中で男女が互いにアドバイスし合う場面が随所に見られた。屋外で行われたソフトテニスでは、前半のチームでの活動をそれぞれのチームの計画で、場を工夫しながら進めさせ、後半の対抗戦に備えていた。どの領域も単位時間100分の長所を十分に活用し、課題設定、時間計画、課題解決、教え合い・学び合い、評価の活動にゆとりをもって取



< 第7分科会 >

り組んでいた。また、その中で仲間とかかわる姿が多く見られ、話し合いや教え合いが活発に行われていた。最後に、すべての領域で本時のはじめと中間

に体はぐしの運動を積極的に取り入れた授業展開であったことをつけ加えておく。

#### 第 8 分科会 <常務理事 蜂須賀 博昭>

宮崎市立宮崎中学校 校長 湯地 秀幸  
研究主題「仲間とのかかわりの中でともに伸びあう体育学習」～選択教科を通して～

学校の概要 本校は宮崎市の中心部に位置し、19 学級、全校生徒700名弱の中規模校である。周辺には商店や住宅等が密集している。地域に根ざした学校のイメージは強く、保護者をはじめ地域社会からの理解と期待は高い。運動については積極的に取り組んでおり、部活動も盛んで、各種大会での活躍が目立つ。しかし、体育学習については1時間の学習は積極的に取り組むが、常に課題意識を持ち、自ら考え、主体的に活動することに欠けがちであり、これを課題としている。課題解決のために上記の研究主題を設定し、主として選択教科を通して研究を進めている。

公開授業 恵まれた体育施設をフルに活用し、ネット型インディアカ、フリーテニス、フットサル、タッチラグビーのニュースポーツを取り上げての公開授業であった。これは、本校の選択教科履修の考え方によるものであり、選択教科を発展的な学習ととらえ、初めて経験するスポーツとの出会いでも、誰でも取り組むことができ、運動の特性にふれやすく、生涯にわたって親しむことができるということに基

づいている。

のびのびと明るく活発な動きは、男女共習のグループ活動の良さが生かされ、授業参観をしている者もすがすがしい気分となり、研究主題に迫る学習活動として評価したいものであった。

選択授業として実施するにあたり、保健体育科から出されたガイダンス資料がユニークであった。それは、『Enjoy ニュースポーツ』というタイトルで選択種目を紹介したものである。「僕たちニュースポーツ4兄弟、よろしくね、僕たちは誰とでも仲よくでき、長くつき合うことのできる今話題の兄弟なんだ。僕たちのことをわかってほしいから、今日は一人ずつ自己紹介をします」で始まり、「ボクが長男のタッチラグビーです……」とそれぞれ特性を述べて興味・関心をひいている。授業への意気込みが感じられるものであった。このことは、他の全教科についても学習への取り組みや学習成果をあげる上で役立っているとのことであった。



< 第 8 分科会 >

#### 第 9 分科会 <常務理事 金森 久>

宮崎県立宮崎大宮高等学校 校長 荒川 功  
平成10年に創立110周年記念式典を挙行了した伝統校で、各学年普通科9学級、文科情報科2学級、生徒数男女合計1,300余名の大規模である。県内有数の進学校でもあり、平成7年から新しい学力の養成と進学校として期待に応えるため65分授業を実施してきた。当然、体育の授業時間も65分となっている。

研究協議会に配布された補助資料の中で、本校の保健体育科の経営・運営について、抜粋した内容を提示している。大変よく検討された充実した内容であると思うので、次に、その一端を記載する。

まず、平成13年度保健体育科の努力事項を8項目にまとめて明示している。さらに、同科業務推進計画を業務別に、体育管理業務推進計画を内容別に、それぞれ月別一覧表として示している。以上のこと

は、保健体育科の運営を効果的に行うため必要なことで、すべての学校で実施してほしいと願望する。

次に、生徒各自に学校独自の学習ノートを持たせている。その内容は、選択制授業の進め方、種目選択上の留意事項、学習計画書の活用方法と書き方について、体育年間計画表、学習計画表（個人）、自己評価表、単元自己評価表、スポーツテスト記録表の8項目について生徒が理解しやすいように記述されている。また、グループノートでは、学習計画、出席簿、ウォーミングアップ内容、学習日誌、記録簿、スキルテスト表の6項目について各種目ごとに作成されている。この2つのノートは生徒の活用を十分配慮した内容であると深く感銘を受けた。

今後の課題として4項目あげているが、とくに、最後の項目は選択制授業の問題点としても多くの学校に共通していると思われるので、次に掲示する。

指導から支援という授業、人やものとかかわりを大切に授業の実態について、「教師の指導責任の放棄ではないか」と他教科からの指摘がある。確かに高校での学習に意欲をなくした生徒が、特に体育学習を敬遠する実態がある。「意味のない選択をする」「仲間に入らない」「学習ノートを提出しな

い」等の活動レベルに留まっている。彼らにも豊かなスポーツライフを考える力を養ってあげたい。だからこそ支援やかわりを大切にしたい。これからは、彼らの学習活動を集団で支援するティームティーチングスタイルと効果的な支援活動の授業研究や事例研究を進めていきたい。

#### 第10分科会 <高体研部長 猪股 整>

宮崎県立宮崎南高等学校 校長 別府 俊紘  
宮崎南高等学校は、「誠実、創意、気魄」の校訓のもと、昭和37年の学校創立以来各界に優秀な人材を送り出している。さらに、本年度から創立40年間の歴史と伝統を尊重しながら「新たな図南飛翔」をスローガンに21世紀を支える人材の育成にあたっている。普通科のみの総計34学級、生徒総数1,343人の大規模校であり、卒業後の進路は98%が大学へ進学する典型的な進学校である。そのようななか、運動部の活動も充実しており、運動・スポーツに対する興味・関心は比較的高いといえる。ただ、現代社会の青少年の一般的な傾向として活発に運動する者とそうでない者に二極化しているという現状がある。また、心身共に「ゆとり」が不足している傾向が見られ、十分に存在感と自己実現の喜びを味わえていない生徒もいるのではないかと考えられる。

これらの課題を踏まえて、学校の教育目標の一つの精神である「個性尊重」を授業の中で十分に発揮することで、本県の目指す「運動の持つ楽しさを楽しむ生徒」を育てていくことが出来るのではないか。それは、つまり学習過程で、自己の持つ能力を十分に生かし、それを周囲から認めてもらうことで、チームや仲間にとって自分がかけがえのない存在であるということを実感することが出来、そのことが生き生きとした主体的な活動に繋がっていくからである。

公開授業Ⅰは、1年生の男女共習、Ⅱは、2年生

による領域間選択授業が展開されたが、この選択制授業は、県内で最も早く昭和60年に導入されている。以来、毎年研究テーマを設定し日々研鑽に努力しているが、1学年で「学び方」の基礎を固め、2学年においては男女別習でより進んだ段階の「学び方」を習得しながら運動技能を高めることに重点を置いている。平成12年度からは、運動技能のさらなる向上を目指し、第2・3学年での男女別習、基礎的な体力が低下しつつある現状を踏まえて、第1・2学年で陸上の長距離走と柔道を必修としている。「豊かなスポーツライフの基礎づくり」と「心身の健康の保持・増進と体力の向上」を課題とし、「一人一人が生き生きと動き、個性を生かす体育学習をめざして」を研究主題に設定して取り組んできた経緯があるが、コース制導入により選択の幅を広げ自己が選択した種目について、その技能の習熟をめざすことと、より多くの種目に取り組むことで、生涯を通じて様々な運動を経験する過程の一環とする考え方の意図がうかがえる授業展開であった。公開当日は、紺碧の空の下、テーマに沿った学習活動がまきに行われ、授業に取り組む生徒の顔がキラキラと輝き、さわやかな笑顔が印象的であった。



< 第 10 分科会 >

## 第40回全国学校体育研究大会（宮崎大会）を終えて

宮崎県実行委員会

会 長 竹 村 義 政



平成13年度全国学校体育研究協議会・第40回全国学校体育研究大会は平成13年11月8日（木）9日（金）の両日晴天に恵まれ、南国宮崎でも深まりゆく秋を感じられる良き日に全国から2,500有余名の皆様をお迎えし盛大に開催されました。

第35回秋田大会で平成13年度の大会を宮崎県で開催することが決定。21世紀の幕開けの年に、第40回の記念すべき大会を開催することができるということで、宮崎らしさを豊富に盛り込んだ大会にしたいと準備をしてきました。

研究主題を設定するにあたって、これからの学校体育の役割は、子ども一人一人に運動を行う楽しさや喜びを体験させつつ、健康の保持増進・体力の向上等に関しても基礎的な知識や実践的な態度を培い、生涯にわたっての運動やスポーツ実践の基礎づくりをすることであると考え、「子どもたちが自ら進んで運動の楽しさや喜びを体験し、仲間と一緒に、夢中になって取り組む運動遊び・体育学習のあり方を求めて」としました。

途中、準備の段階で文部省から文部科学省に改編することになり、主催行事の見直しがあって、今までの研究大会と異なった研究協議会が提示され、少し戸惑いがありましたが、関係各位と何度も協議を進めてまいりました。基本的には今までの大会と表彰式を除いて何ら変わらないことの確認ができ、文部科学省・日本学校体育研究連合会のご指導を受けながら、宮崎らしい、今後の学校体育を見据えた協議会・大会になるよう心がけて、大会を迎えることになりました。

協議会第1日目、全体会をシーガイア・サミットホールにおいて開会。初めに秋山仁東海大教授による特別講演が行われました。

次に実行委員会研究部が基調報告。研究主題の設定説明、2日目の各分科会場の研究の取り組みを紹介し、公開授業の参考となる基調提案が行われました。昼食後の公開演技では、幼・小・中・高・特殊学校の園児・児童生徒が、人とかわる、地域とかかわる表現・ダンス「みやざき 玉手箱」を演技し、県大会で行っているつながりのある授業発表そのまま郷土宮崎の自然、文化、歴史のすばらしさを、

躍動感あふれる表現・ダンスで力強く表現し、満場の参加者を感動させることができました。

解説は「学習指導要領の改訂とこれからの体育の授業づくり」と題して文部科学省スポーツ・青少年局本村清人体育官からで、「児童生徒に運動に親しむ資質や能力を身に付けさせ、体力を向上させる授業の取り組み等これからの学校体育の在り方について」の解説をしていただきました。

1日目最後のシンポジウムはコーディネーター東京学芸大学細江文利教授で、テーマは「心と体をはぐむ体育の授業を目指して」、4名の提言者がそれぞれの立場から研究・実践を踏まえた貴重な提案をいただき、参加者と短い時間ではあったが有意義な討議が行われました。

協議会終了後、学校体育振興に貢献のあった学校・個人の表彰が行われ、本年度7校学校体育研究最優秀校の文部科学大臣賞が頂けたことは今後の学校体育振興の励みとなっていくことを確信しました。この表彰式の在り方については、今後、文部科学省・日本学校体育研究連合会・開催県と十分な話し合いが行われ、表彰校・表彰者が気持ち良く参加できる方法を考慮していただきたい。

第2日目は、宮崎らしいよく晴れた青い空の下、全国学校体育研究大会として11分科会場でそれぞれの研究テーマにそって公開授業が行われ、研究発表、協議をしていただき、各会場とも盛会のうちに全日程を終了することができました。

宮崎大会は文部科学省としての省改編のため協議会・研究大会の2本建ての会となりましたが、学校体育の充実・発展に向かって進む研究会であれば、文部科学省・学体連が十分に検討されて、一本化し、この会がますます発展することを祈念いたします。

大会を開催するにあたり、文部科学省をはじめ日本学校体育研究連合会、宮崎県教育委員会及び宮崎市教育委員会の御指導と御支援を頂きましたことに厚くお礼申し上げます。そして各分科会での的確な指導助言をいただきました先生方、全国各地から参加頂いた先生方本当にありがとうございました。

第41回北海道大会の成功を心から祈念申し上げ、大会報告といたします。

## 本年度全国大会（北海道）を迎えるにあたって

北海道実行委員会

委員長 宮 崎 岩 次



平成14年度全国学校体育研究協議会・第41回全国学校体育研究大会が北海道で開催されるに当たり、ご挨拶とご案内を申し上げます。

この大会は、北海道としましては、平成2年度以来2度目の開催となります。幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特殊教育諸学校が、一つとなって実行委員会を構成し、10月17、18日に行われる大会に向けて、準備を進めているところです。各会場で、札幌の児童・生徒の明るく、生き生きとした学習の様子を公開したり、北海道各地での実践を提案し、これからの北海道の学校体育の在り方について、全国の体育関係者の皆様方からご意見をうかがう中で、確たるものにしていきたいと考えております。新しい時代に生きる児童・生徒にとって、何をどのようにすることが必要なのかという方向づけ等につきまして、日ごろ研究されていることや、考えていらっしゃることを積極的にお聞かせいただけますと有り難く思います。

大会主題を「はすむ心と体、共に高め合う体育活動」とし、これを目指しての提言であります。「どの子も楽しめる教材づくり」「子供の気づき・工夫を生かす学習展開づくり」「仲間とのかかわりを豊かにする学習展開づくり」という視点を持って、現在実践研究を進めております。それらを幼稚園1園、小学校4校、中学校3校、高等学校2校、特殊教育学校1校、5校種11分科会で提言いたします。

平成2年に全国大会を経験して以来、北海道の体育人、特に若者たち（今は各校の中堅として活躍しています）は、研究に対する情熱を今日まで持ち続けてまいりました。児童・生徒の満足した、充足感いっぱいの表情や態度、そして、力をつけた姿を見たいためであります。

そのために、「子供を知る」ことの大切さを知りました。「こんな児童・生徒だからこそ、このような体育の学習が必要なのだ」ということです。児童・生徒の生活や、体育に対する意識や実態から、授業づくりをしていくというスタンスを大切にしていこうとしたのです。運動不足、疲れ、ストレス、不健康な子供たちの実態、苦手な人とかかわり、社会性の欠如などを踏まえての授業づくりであります。

また、「教材づくり」にも力を入れてきております。現在まで引き継がれている文化遺産としての教材はもとより、身近にある素材からの教材化、ニュースポーツの教材化、保健の授業の重視、体ほぐしの運動など学習指導要領にのっとった教材づくりです。

これらのことは、一人一人の児童・生徒が、持ち味を生かしながら立ち向かう体育科・保健体育科の学習を通して、運動のよさ・楽しさを実感させることをねらっています。私共は、主体的に生涯スポーツに向かう能力や態度の基礎・基本を培うための実践研究と考えています。

私共は、全国大会の「成功」という2字を次のように考え、準備を進めております。

- ・お一人お一人の参加者の研究に対して、何らかのお手伝いできたか。
- ・私共の研究を知ってもらい、さらに研究を深めたり、方向づけできたか。
- ・児童・生徒が伸びるだけでなく、教師も力をつけることができたか。
- ・おいでいただいた皆様に心地よいひとときを過ごすお手伝いできたか……と。

会場となる札幌市は、人と自然がひびき合う情緒いっぱいの北の都です。世界的な音楽祭が開かれる芸術の森やキタラ、世界大会も行われる大倉山や宮の森のジャンプ競技場、サッカーのワールドカップやプロ野球などの会場となる札幌ドーム、これらと共に時計台や赤れんがの愛称で親しまれている北海道開拓時代のシンボル北海道庁旧庁舎などがゆったりと存在しております。街全体が見どころですし、北海道各地にも見どころが盛り沢山です。食べ物のおいしさもお薦めいたします。ぜひ多くの方々においでいただき、お楽しみいただければと思います。

終わりに、北海道大会開催に当たり、たくさんのご指導、ご支援をいただいております文部科学省、日本学校体育研究連合会をはじめ、各関係各位に深く感謝申し上げます。私共は、大会成功に向けて努力を重ねてまいります。皆様には、更なるご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 日本学校体育振興会「学体振」の発足について

日本学校体育振興会幹事担当会社

(株)シューズ・アカデミック 代表取締役 小間井 宏 尚

財団法人日本学校体育研究連合会は「学校体育に関する研究調査並びに学校における体育活動及び体育研究活動に必要な援助を行い、あわせて学校体育指導者の資質の向上を図るために必要な事業を行い、もって学校体育の発展に寄与する」ことを目的として活動を続けております。しかし、この財団の財政を支えている特別賛助会員に、このところ長期のバブル崩壊の影響を受け微妙な段階に差し掛かっております。

平成12年浅田会長より特別賛助会員の増額・増強のご相談を受けました。これを受けて私は(勸)学体連が編集を行う機関誌「学校体育」を核に、特別賛助会員の増強を図るよう企画を立て各企業にお話を持掛けておりました。そしてさて発足をしようとしたところ、機関誌の廃刊が決まり企画の練り直しをやらなければならなくなりました。

新企画は、今後の(勸)学体連の発展を視野にいれ、新しい考え方を導入しました。

その基本構想は、「(勸)学体連は民間企業の資源(資金・人材・設備・情報)を活用する」。

第一にまず「財政的に安定させる」、長期に安定的に財政を支援していただく企業グループを作る。

第二に「(勸)学体連にネットワークをつける」、企

業の全国ネットワークを(勸)学体連として利用出来ないか。

第三に「学校体育に新しい発想と知恵を」、企業が持っている人材(シンクタンク等)を新しい発想・知恵として利用できないか。

学体振は(勸)学体連の発展的な活性化のため ①お金を出し ②知恵を出し ③汗を流す 組織として出発することになりました。そして各企業との話し合いの中でいろいろ教えられました。例えば、

「学校体育は生涯体育の中で一番指導者も揃っているし充実している。社会体育は頂点を目指すスポーツと言うことになり、一方、学校体育は国民総体力づくりが叫ばれているところの生涯体育をリードする立場にある。故に(勸)学体連全国大会の基調講演等も開かれたものにし、PTA や一般参加者も参加できるようにすることが必要である。この底辺の拡大こそが企業が応援する意義がある」と教えられました。サポーターとしてのこの新しいかわり方は今後色々とし試行錯誤があると思います。

今後、より一層各地区的な学体研とコミュニケーションをとってゆきたいと思っております。ご相談をかけることがあるかと思いますが、その時はどうかよろしく願いたします。

平成14年5月吉日

## 日本学校体育振興会「学体振」の設立によせて

小間井氏は、金沢と大阪に20数名を抱える雇用主で、事業のかたわら、地域の「国際交流会」や「交通安全会」の会長などボランティア活動も熱心で、母校の教師や生徒をドイツやニュージーランドに連行し、彼我の教育・生活状況の違いを体験させるなど、まさにいま流行の長岡藩の「米百俵」を「地で行っている」ような人でもあります。

もちろん、体育についての認識も高く、自らの仕事を通して、幼少児から耐性を培うことの必要性を強調、わけても体育指導者の企画力と実行力に大き

な期待を寄せられています。

氏の人柄を一言にして言えば、このような利害を度外視して人々の魂の基底に呼びかけ、共感を覚醒させるような人柄であるといえましょう。

機関誌「学校体育」の休刊が決まった後の、「学体振」の支援は、従来の機関誌に代わる新しい媒体の構築、特に、各支部における体育授業の充実に向けての事業を中心に、広くご協力いただくこととなります。

(機関誌「学校体育」55巻1号より)

## (財)日本学校体育研究連合会小史

### 1 (勸)日本学校体育指導者連盟の誕生

昭和21年文部省体育官補吉田清(日本大学名誉教授)は、東京体専校長大谷武一、東京高師教授今村嘉雄の方々と相計り、学校体育指導者団体の結成へと働いた。

当時は、終戦直後のことで、国民生活は困難・欠乏を極めた。当然、学校教育資材は皆無に等しかった。このままでは、国の復興の大原動力となる青少年の健康・気力・体力が低下する。そのためには体育を振興させねばならないということになった。

そこで、国に体育用資材、指導用衣料、食糧の増配などを陳情するためにも、また、配給の受け皿を作るためにも、前記団体の結成を急ぐ必要があった。このような時代の要請から昭和22年5月頃、日本学校体育指導者連盟が結成され、事務局を大塚窪町金子書房内に置き発足した。昭和22年末頃体育衣料や体育用品の配給があった。昭和25年2月23日日本学校体育指導者連盟は、財団法人として認可され、各都道府県毎の連合会を支部として組織し、活発な活動を進めた。

昭和30年3月、連盟は事務局を学習院大学内に移転した。この頃より連盟は、指導者の福利厚生、体育資材の配給、親睦などの本来的な役割を果たし、次第に体育指導者の資質の向上へとその重点施策を転換した。

### 2 (勸)「学体連」の設立

前述のような情勢の中で、昭和37年3月10日、(勸)日本学校体育指導者連盟は発展的に解消し、(勸)日本学校体育研究連合会が設立された。この設立に当っては、文部省西田剛体育課長および全国体育主管課長会議の指導と協力を得た。

改組後、(勸)「学体連」は意欲的に諸事業を行った。その主なものは次の通りであった。

全国学校体育優良校表彰、全国学校体育研究大会、学校体育指導者講習会、機関紙の刊行、図書刊行、組織の充実、など多彩に亘った。

### 3 (勸)「学体連」の事業概要

#### (1) 全国学校体育優良校表彰

昭和26年(第1回)、平成14年(第52回)

#### (2) 全国学校体育功労者表彰

昭和46年(第1回)、平成14年(第31回)

#### (3) 全国学校体育研究大会

昭和37年(第1回)津田沼小学校主会場、参加人数毎回平均約2,500名。この大会は、14年北海

道(50周年記念行事を予定)、15年三重県、16年徳島県、17年富山県、18年栃木県、19年京都府、20年岩手県、21年中国ブロックとなっている(文部省共催)。

#### (4) 全国学校体育指導者講習会

平成14年までに幼稚園・保育園の部及び小学校の部は33回、中学校・高等学校の部は12回を実施。毎年開催。

#### (5) 図書刊行

機関誌「学校体育」休刊(かつて、学校体育研究、体育評論など若干)、会報平成14年第39号、昭和55年~62年ごろに亘り、スポーツ断想3巻、親子のライフ&スポーツ12巻、現代小学校体育全集13巻刊行など。これらの図書刊行は、大石三四郎会長、浅田隆夫常務理事の熱意と努力により実現した。また、毎年全国大会研究紀要、実践研究資料集など発行。

#### (6) 組織の充実

昭和45年の加盟団体数は36団体であったが、昭和49年今村嘉雄会長は未加盟県を行脚して加盟を促進し、大石三四郎次代会長も努力され、昭和58年組織率100%となった。

#### (7) 学体連の資金

終身賛助会員、特別賛助会員 - 児島(株)、JTB及び、教育シューズ振興会(会長・渡辺昌平)……などの賛助会費や寄付金、ならびに分担金などによって賄われている。

### 4 (勸)「学体連」の歴代会長

初代故大谷 武一(元東京教育大学名誉教授・元東京教育大学体育学部長)

昭和25年2月23日~昭和30年10月1日

2代故東 俊郎(元文部省体育局長・元順天堂大学体育学部長)

昭和30年10月26日~昭和42年10月1日

3代故栗本 義彦(元日本体育大学学長)

昭和42年10月10日~昭和48年3月31日

4代故今村 嘉雄(元東京教育大学名誉教授・元東京教育大学体育学部長)

昭和48年5月25日~昭和53年7月20日

5代大石三四郎(筑波大学名誉教授・元筑波大学副学長)

昭和53年8月14日~平成6年5月20日

6代浅田 隆夫(筑波大学名誉教授・元筑波大学学校教育部長)平成6年5月~現在

## Gakutairen 事務局だより

## 1. 平成13年度 常務理事会の議事摘要

副理事長 三 原 忠 彦

平成13年度の常務理事会の議事摘要は以下の通りです。

## 1301回常務理事会 (H13, 4/25 金)

- ・平成13年度第1回理事・評議員会について(議題、担当者、会場の確認)
- ・12年度青森大会の参加者数報告
- ・全国学校体育研究大会について(大会の形式、表彰について)審議
- ・体育実技研修会について(幼稚園の部)審議
- ・学校体育振興会の立ち上げについて報告

## 1302回常務理事会 (H13, 5/7 月)

- ・全国学校体育研究大会の表彰について確認
- ・平成12年度事業報告及び決算報告の確認
- ・機関誌「学校体育」販売促進について審議
- ・平成13年度事業(案)及び予算(案)の審議
- ・体育実技研修会について(幼稚園の部)審議

## 1303回常務理事会 (H13, 5/26 土)

- ・平成13年度全国大会開催要項の報告
- ・平成13年度中央審査会の日程確認
- ・平成13年度優良校の推薦追加資料について報告
- ・平成13年度第1回理事・評議員会の確認

## 1304回常務理事会 (H13, 7/5 木)

- ・平成13年度中央審査会について報告
- ・全国学校体育研究大会について準備状況報告
- ・ブロック会議について報告
- ・50周年記念事業について審議(記念誌について、募金について)
- ・13年度最優秀校審査の件報告

## 1305回常務理事会 (H13, 9/11 火)

- ・学体連支援団体会議について報告
- ・文部科学大臣賞について報告
- ・第40回大会の日程等説明、理事の出席確認
- ・第2回理事・評議員会について報告
- ・第41回北海道大会について報告
- ・体育実技研修会実施報告
- ・50周年記念事業の募金について審議
- ・優秀校・功労者表彰の賞状について審議

## 1306回常務理事会 (H13, 10/12 金)

- ・第40回全国大会までの準備状況報告
- ・第40回全国大会へ役員の参加要領確認

- ・第2回理事・評議員会の準備状況確認
- ・第2回理事・評議員会の議事内容・次第の審議
- ・50周年記念事業の募金について審議
- ・文部科学大臣賞の交付について審査会に関わる審議

## 1307回常務理事会 (H13, 12/15 土)

- ・常務理事の交替について報告
- ・全国(宮崎)大会の表彰式についての反省
- ・第2回理事・評議員会ブロック会議まとめ確認
- ・50周年記念誌の進捗状況報告
- ・募金について報告
- ・「学校体育」今後の見通しについて報告
- ・実技研修会(小・中高の部)実施報告
- ・賛助会費納入状況の報告
- ・功労者への文科大臣賞申請について協議
- ・会報第39号について審議
- ・13年度研究助成について審議

## 1308回常務理事会 (H14, 1/22 火)

- ・第2回理事・評議員会の議事要旨確認
- ・14年度体育実技研修会の日程・内容の審議(幼・小・中高の部)
- ・最優秀校に対する大臣賞の申請について審議(審査のための提出資料、文科省への提出資料)
- ・14年度第1回理事・評議員会の日程審議
- ・幼稚園部会の立ち上げについて審議
- ・50周年記念誌について確認
- ・募金の趣意書について確認
- ・学体振の立ち上げ進捗状況の報告

## 1309回常務理事会 (H14, 2/25 月)

- ・宮崎大会の文科省への報告についての報告
- ・14年度第1回理事・評議員会の開催通知審議
- ・最優秀校賞下付申請について確認
- ・文科省への13年度報告書について確認
- ・学体振の立ち上げについて資料の説明

## 1310回常務理事会 (H14, 3/15 金)

- ・14年度第1回理事・評議員会の内容確認
- ・最優秀校賞下付の文科省への申請について報告
- ・優秀校等の推薦依頼の内容と日程の確認
- ・都道府県加盟団体調査票の提出依頼について確認
- ・50周年記念誌原稿について報告

## 2. 平成14年度 研修会・全国大会日程

理事長 田 川 利 賢

## 1. 第33回 全国学校体育実技研修会

## (1) 幼稚園・保育園の部

- ① 主 題 「幼児の心とからだを育てるための実技と理論」
- ② 日 時 平成14年8月4日(日)～5日(月)
- ③ 会 場 日本女子大学附属豊明小学校 体育館
- ④ 内容と講師  
その1 「幼児の運動と小型遊具」 ..... 東京学芸大学名誉教授 近藤 充夫  
その2 「幼児の運動と表現」 ..... 鶴見大学短期大学講師 朴 淳香  
その3 「幼児の運動とゲーム」 ..... 日本女子大学教授 岩崎 洋子  
その4 「幼児の運動能力の測定の方法と評価」 ... 東京学芸大学名誉教授 近藤 充夫
- ⑤ 日 程

| 9:30        |        | 10:00              | 10:30               | 12:30                     |                   | 13:30 | 16:00 |
|-------------|--------|--------------------|---------------------|---------------------------|-------------------|-------|-------|
| 8月4日<br>(日) | 受<br>付 | 開<br>講<br>式        | その1<br>「幼児の運動と小型遊具」 | 昼<br>食<br>休<br>憩          | その2<br>「幼児の運動と表現」 |       |       |
| 8月5日<br>(月) | 受<br>付 | その3<br>「幼児の運動とゲーム」 | 昼<br>食<br>休<br>憩    | その3<br>「幼児の運動能力の測定の方法と評価」 | 閉<br>講<br>式       |       |       |
|             |        | 12:00              |                     | 13:00                     | 15:30             |       |       |

- ⑥ 定 員 80名 ⑦ 会 費 3,000円(学生2,000円)(資料代、講師謝礼、運営雑費)
- ⑧ 携行品 ・運動の服装 ・運動靴 ・筆記具 ・保険証 ・着替えのシャツ

## (2) 小学校の部

- ① テーマ 「子どもにとって魅力ある教材の開発と教師の適切な支援」
- ② 日 時 平成14年7月29日(月)～30日(火)
- ③ 会 場 東京都荒川区立ひぐらし小学校、及び荒川区立諏訪台中学校(水泳場)  
所在地 荒川区西日暮里2-32-5(ひぐらし小)  
電 話 ひぐらし小: 03-3801-7280 諏訪台中: 03-3891-6115  
交 通 J Rまたは京成線 日暮里駅 北口の東口から徒歩5分  
営団地下鉄千代田線 西日暮里駅「3番口」から徒歩8分

## ④ 体育実技内容と講師

|       |       |          |       |
|-------|-------|----------|-------|
| ボール運動 | ..... | 筑波大学助教授  | 岡出 美則 |
| 陸上運動  | ..... | 東京学芸大学教授 | 池田 延行 |
| 器械運動  | ..... | 筑波大学教授   | 高橋 健夫 |
| 水 泳   | ..... | 筑波大学教授   | 野村 武男 |

## ⑤ 日 程 (晴雨にかかわらず全領域実施)

| 8:30         |        | 9:00               | 9:30               | 12:00                |                      | 13:30 | 16:00 |
|--------------|--------|--------------------|--------------------|----------------------|----------------------|-------|-------|
| 7月29日<br>(月) | 受<br>付 | 開<br>講<br>式        | ボール運動<br>「ネット型種目等」 | 昼<br>食<br>休<br>憩     | 陸上運動<br>「跳躍種目、ハードル走」 |       |       |
| 7月30日<br>(火) | 受<br>付 | 器械運動<br>「楽しみ方を広げて」 | 昼<br>食<br>休<br>憩   | 水 泳<br>「初歩の泳法指導、着衣泳」 |                      |       |       |
|              |        | 8:30               | 9:00               | 10:30                | 11:30                | 13:00 | 15:30 |

- ⑥ 定 員 100名 ⑦ 会 費 4,000円

## (3) 中学校・高校の部

- ① 日 時 平成14年11月30日(土) 13:00～16:00
- ② 会 場 武蔵野市総合体育館(J R三鷹駅よりバス 市役所前下車)
- ③ 種 目 体操・ダンス ④ 内 容 幼・小・中・高・大学の各校種の発表、指導者講習会

⑤ 参加対象 中・高校教諭 ⑥ 講 師 東京女子体育大学 教官

## 【申し込み方法】

(1) 幼稚園・保育園の部 ・申し込み先 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター内 財団法人 日本学校体育研究連合会 会長 浅田 隆夫

・参加費振り込み方法 \*別添郵便振込用紙を使用して申し込む。

\*振込用紙がない場合は、郵便局で振替用紙をもらって振り込む。口座番号 00130-2-563814

(2) 小学校の部

・申込み→FAX、または郵便による（氏名、所属校名、所属校電話番号を明記）

・申し込み先→東京都江戸川区立松江小学校 昌子正夫 校長

FAX: 03-5662-2965 (TEL: 03-3652-7146) 所在地: 〒132-0025 東京都江戸川区松江1-16-5

・参加費振り込み方法 振替口座 江戸川東小松川郵便局 口座番号 00180-1-180014

口座名称 第33回全国学校体育実技研修会事務局 昌子正夫 申込締切 7月8日(月)

## 2. 第41回 全国学校体育研究大会

① 研究主題 「はすむ心と体、共に高め合う体育活動」 ② 期 日 平成14年10月17日(木)～18日(金)

③ 全体会場(第1日)札幌市民会館 ④ 分科会場(第2日) 幼1、小4、中3、高2、養1の11会場

⑤ 第2回理事・評議員会及び代表者会議 日時: 平成14年10月16日(水)14時～16時 会場: 京王プラザ

⑥ 創立50周年記念行事(式典及び感謝状贈呈、祝賀会) 日時: 17時～19時 会場: 京王プラザ

## 3. 平成14年度 事務局からのお願い

事務局 小 野 良 子

① 県によっては事務局の変る所もあるかと思いますが、該当県は速やかにその旨ご連絡下さい。

② 年度初めの書類は前年度事務局並びに県教育委員会宛に送付されると思いますので、ご配慮お願いいたします。

③ 「納入方法について」

下記の方法でお願いいたします。

(イ) 分 担 金

(ロ) 全国学校体育研究大会資料集の申し込み(14年度北海道)

(ハ) 全国学校体育研修会申し込み

(幼稚園・保育園の部、小学校の部)

(ニ) 一般賛助会費、終身賛助会員(個人の部)

以上(イ)～(ニ)に関してはすべて郵便振込とします。

郵便振込 口座番号 東京 00130-2-563814

学体連事務局

いずれも書類発送時に振込用紙を同封致します。

④ 特別賛助会員団体会費納入方法について

振込宛先 東京三菱銀行 新宿西口支店

普通預金 口座 6418028

(9/17より新宿中央支店に統合します)

財団法人 日本学校体育研究連合会

会長 浅田 隆夫

⑤ その他、連絡事項

(1) 事務局開局日時について

週3回(12時～16時)出勤しておりますが曜日については若干、不定期となることがあります。連絡が取れない場合は、できるだけFAXをご利用いただければと思います。

(2) 事務局本部 国立オリンピック記念青少年総合センター内センター棟3階です。

FAX 03-3465-7464 TEL 03-3465-3954

Eメール gakutairen@msb.biglobe.ne.jp

## 平成13年度 賛助会員一覧表

| 終身賛助会員(3万円) | 一般賛助会費(1万円) | 埼玉      | 田中靖男     | 静岡        | 田中浩策     | 岡山    | 四宮 薫 |
|-------------|-------------|---------|----------|-----------|----------|-------|------|
| 岩手 早坂七郎     | 北海道 川村俊明    | 東京 梅原照二 | "        | 渡辺 智      | 愛媛 金子公子  |       |      |
| 秋田 佐藤武久     | 青森 江良孝昭     | 山梨 林 正文 | 愛知 石原道生  | 福岡 千代丸孝夫  |          |       |      |
| 新潟 齋藤和夫     | 岩手 下田 淳     | 長野 宮坂正篤 | 奈良 迫 正一  | 佐賀 福岡 製宏雄 |          |       |      |
| 山口 中道康正     | 茨城 森協洋二     | 石川 三国昌平 | 和歌山 平野 満 | "         | 川田 宏     |       |      |
| 福岡 白川武司     | "           | 安蔵 幸重   | 岐阜 林 義之  | 岡山 岸 進    | 長崎 白川 忠浩 |       |      |
| 一般賛助会費(2万円) | "           | 長谷川 訓也  | "        | 田口 機子     | "        | 春名 貞和 | "    |
| 大阪 石黒典男     |             |         |          |           |          |       | 松尾 求 |

## 平成14年度役員一覧表

H.14.6.20現在  
(財)日本学校体育研究連合会

| 担当職務 | 氏 名   | 現 職・職 名        | 電 話            | 担当職務 | 氏 名   | 現 職・職 名        | 電 話            |
|------|-------|----------------|----------------|------|-------|----------------|----------------|
| 名誉会長 | 大石三四郎 | 筑波大学名誉教授       | 自 0480-65-7813 | 同    | 佐山 義昭 | 板橋区立志村第二中学校校長  | 自 0422-54-6132 |
| 会 長  | 浅田 隆夫 | 筑波大学名誉教授       | 自 03-3312-1891 | 同    | 井上アヤ子 | 創価大学教育学部教授     | 自 042-573-0529 |
| 副会長  | 金森 久  | 元東京都立九段高等学校校長  | 自 048-861-6855 | 監 事  | 森 知高  | 福島大学教育学部教授     | 自 0245-48-8218 |
| 同    | 深川 長郎 | 国士館大学文学部教授     | 自 03-3321-2726 | 同    | 片岡 暁夫 | 国士館大学体育学部教授    | 自 03-3303-6649 |
| 理事長  | 田川 利賢 | 元東京農工大学教授      | 自 0422-44-7987 | 同    | 大畑 重喜 | 元筑波大学附属ろう学校副校長 | 自 0471-74-7150 |
| 副理事長 | 三原 忠彦 | 元府中市教育委員会体育課課長 | 自 0426-65-3165 | 幹 事  | 古川 浩洋 | 都立工業高等専門学校助教授  | 自 03-3885-4156 |
| 同    | 友添 秀則 | 早稲田大学人間科学部教授   | 自 042-325-8441 | 同    | 三浦美知子 | 竹早教員保育士養成所     | 自 03-5749-7170 |
| 常務理事 | 後藤 一彦 | 荒川区立ひぐらし小学校校長  | 自 0489-22-2084 | 事務局  | 小野 良子 | 学体連事務局主任       | 自 03-3390-7658 |
| 同    | 堀内 俊雄 | 荒川区立町屋幼稚園園長    | 自 0297-74-7241 | 同    | 酒井志百里 | 同副主任           | 自 042-527-7270 |

| No | 県 名 | 理事氏名  | 現 職・職 名            | 電 話          | 評議員氏名 | 現 職・職 名        | 電 話          |
|----|-----|-------|--------------------|--------------|-------|----------------|--------------|
| 1  | 北海道 | 宮崎 岩次 | 札幌市立厚別東小学校校長       | 011-898-4650 | 西村 正  | 札幌市立新川中央小学校校長  | 011-761-1511 |
|    |     |       |                    |              | 菅原 正利 | 北海道石狩南高等学校校長   | 0133-73-4181 |
| 2  | 青 森 |       |                    |              | 渋谷 昭信 | 青森県立平内高等学校校長   | 017-755-2333 |
| 3  | 岩 手 | 細川 佳紀 | 岩手大学附属小学校教諭        | 019-623-7275 | 立花 秀美 | 盛岡市立高松小学校校長    | 019-661-2127 |
| 4  | 宮 城 |       |                    |              | 高木 力雄 | 宮城教育大学教授       | 022-214-3461 |
| 5  | 秋 田 |       |                    |              | 佐々木信吉 | 秋田市立飯島小学校校長    | 018-845-0377 |
| 6  | 山 形 |       |                    |              | 小原 正隆 | 山形県立山形中央高等学校校長 | 023-641-7311 |
| 7  | 福 島 |       |                    |              | 安藤 重男 | 梁川町立梁川中学校校長    | 024-577-2161 |
| 8  | 茨 城 |       |                    |              | 小室 洋  | 茨城県立多賀高等学校校長   | 0294-34-0044 |
| 9  | 栃 木 | 田中 一宏 | 栃木県立日光高等学校校長       | 0288-53-0264 | 中山 正孝 | 宇都宮市立陽南中学校校長   | 028-658-1293 |
| 10 | 群 馬 |       |                    |              | 永島 武  | 群馬県立館林高等学校校長   | 0276-72-4307 |
| 11 | 埼 玉 |       |                    |              | 倉橋 政道 | 埼玉県立浦和高等学校校長   | 048-886-3000 |
| 12 | 千 葉 | 久保 浩二 | 千葉県立松戸南高等学校校長      | 047-391-2849 | 浅野 興治 | 千葉県立末広中学校校長    | 043-265-1818 |
| 13 | 東 京 | 梅村 和伸 | 東京都立井草高等学校校長       | 03-3920-0319 | 奈尾 力  | 調布市立第一小学校校長    | 0424-81-7636 |
|    |     |       |                    |              | 斎藤 滋樹 | 世田谷区立松沢中学校校長   | 03-3303-7381 |
|    |     |       |                    |              | 島宮 道男 | 東京都立明正高等学校校長   | 03-3429-5167 |
| 14 | 神奈川 | 山本 博  | 横須賀市立神明小学校校長       | 0468-34-4315 | 日野 宏  | 横浜市立栗田谷中学校校長   | 045-481-3767 |
|    |     |       |                    |              | 川原 正  | 神奈川県立川崎高等学校教諭  | 044-344-5821 |
| 15 | 山 梨 | 林 正文  | 牧丘町三富村中学校創立並川中学校校長 | 0553-35-2204 | 鶴田 正樹 | 山梨県立日川高等学校校長   | 0553-22-2321 |
| 16 | 長 野 |       |                    |              | 飯嶋 紀基 | 塩尻市立広陵中学校校長    | 0263-53-3537 |
| 17 | 新 潟 |       |                    |              | 西澤 忠夫 | 出雲崎町立出雲崎小学校校長  | 0258-78-2205 |

| No | 県 名 | 理事氏名  | 現 職・職 名         | 電 話          | 評議員氏名 | 現 職・職 名                | 電 話          |
|----|-----|-------|-----------------|--------------|-------|------------------------|--------------|
| 18 | 富 山 | 森本 清隆 | 婦負郡山田村立山田中学校校長  | 076-457-2253 | 児島 博史 | 射水郡大門町立大門中学校教頭         | 076-652-0116 |
| 19 | 石 川 |       |                 |              | 加藤 幸三 | 金沢市立北鳴中学校校長            | 076-251-7540 |
| 20 | 福 井 |       |                 |              | 芝田 友貞 | 小浜市立小浜中学校校長            | 0770-52-2612 |
| 21 | 岐 阜 |       |                 |              | 石博 昭之 | 岐阜県立大垣高等学校校長           | 0584-81-2331 |
| 22 | 静 岡 |       |                 |              | 太田 勝征 | 静岡県立伊豆中央高等学校校長         | 055-949-4771 |
| 23 | 愛 知 |       |                 |              | 天野 孝雄 | 愛知県立松平高等学校校長           | 0565-58-1144 |
|    |     |       |                 |              | 平松 英樹 | 豊橋市立吉田方小学校校長           | 0532-31-2055 |
| 24 | 三 重 | 瀬古 淳二 | 三重県立ろえ夢学園高等学校校長 | 059-226-6317 | 中川 安久 | 三重県立稲生高等学校校長           | 059-368-3900 |
| 25 | 滋 賀 |       |                 |              | 鈴川 英明 | 滋賀県立信楽高等学校校長           | 0748-82-2124 |
| 26 | 京 都 | 橋戸 良行 | 京都市立西陵中学校校長     | 075-332-0671 | 大槻 幸作 | 瑞穂町立明俊小学校校長            | 0771-24-5076 |
| 27 | 大 阪 | 高橋 庸  | 大阪府立泉大津高等学校校長   | 0725-32-2876 | 福井 保之 | 松原市立天美北小学校校長           | 0723-35-7400 |
|    |     |       |                 |              | 白石 真二 | 大阪市立我孫子中学校校長           | 06-6697-8161 |
| 28 | 兵 庫 | 豊田 稔  | 兵庫県立伊丹北高等学校校長   | 0727-79-4651 | 飯田 賢良 | 兵庫県教育委員会事務局体育保健課主幹     | 078-362-3787 |
|    |     |       |                 |              | 濱田 浩嗣 | 兵庫県教育委員会事務局体育保健課学校体育係長 | 〃            |
| 29 | 奈 良 | 堀田 一郎 | 桜井市立桜井中学校校長     | 0744-43-7345 | 井澤 一幸 | 吉野町立吉野小学校校長            | 07463-2-4333 |
| 30 | 和歌山 |       |                 |              | 狭間 勇人 | 和歌山市立名草小学校校長           | 073-444-1030 |
| 31 | 鳥 取 |       |                 |              | 小谷 知蔵 | 佐沼村立佐沼中学校校長            | 0858-88-0840 |
| 32 | 島 根 |       |                 |              | 山田 潔  | 松江市立本庄中学校校長            | 0852-34-0523 |
| 33 | 岡 山 |       |                 |              | 日笠 紘  | 岡山県立芳泉高等学校校長           | 086-264-2801 |
| 34 | 広 島 | 中山 龍興 | 広島市立袋町小学校校長     | 082-247-9241 | 河野 一則 | 広島市立可部小学校教頭            | 082-814-2428 |
| 35 | 山 口 |       |                 |              | 阿野 尚之 | 山口県立防府養護学校校長           | 0835-22-6108 |
| 36 | 徳 島 | 神 文子  | 徳島市立大松小学校校長     | 088-669-0814 | 石倉美枝子 | 勝浦町立横瀬小学校校長            | 08854-2-2009 |
| 37 | 香 川 |       |                 |              | 五ノ坪和彦 | 香川県立香川中央高等学校校長         | 087-886-7151 |
| 38 | 愛 媛 |       |                 |              | 大内 博久 | 松山市立余土小学校校長            | 089-972-0322 |
| 39 | 高 知 |       |                 |              | 葛目 英男 | 南国市立岡豊小学校校長            | 088-862-0022 |
| 40 | 福 岡 | 図師 靖範 | 福岡市立青葉中学校校長     | 092-691-9386 | 鈴木 文博 | 福岡市立内野小学校校長            | 092-411-2489 |
|    |     |       |                 |              | 加留部征男 | 福岡県立水産高等学校校長           | 0940-52-0158 |
| 41 | 佐 賀 |       |                 |              | 田口 良之 | 佐賀市立兵庫小学校校長            | 0952-23-5791 |
| 42 | 長 崎 |       |                 |              | 井手 大統 | 長崎市立小島中学校校長            | 095-821-9125 |
| 43 | 熊 本 |       |                 |              | 永田 敬  | 熊本市立砂取小学校校長            | 096-382-7033 |
| 44 | 大 分 |       |                 |              | 大渡 康宏 | 大分市立金池小学校校長            | 097-534-2500 |
| 45 | 宮 崎 |       |                 |              | 薬師 正義 | 宮崎市立生目台中学校校長           | 0985-54-6000 |
| 46 | 鹿児島 | 前城 美章 | 鹿児島県立甲南高等学校校長   | 099-254-0175 | 岩元 賢治 | 鹿児島市立甲南中学校校長           | 099-254-9155 |
| 47 | 沖 縄 | 松根 正廣 | 沖縄県立前原高等学校校長    | 098-973-3249 | 宮城 初男 | 那覇市立石田中学校校長            | 098-832-7308 |

## 平成14年度全国学校体育研究協議会 第41回全国学校体育研究大会

## 開 催 要 項

## 1. 研究主題

「はずむ心と体、共に高め合う体育活動」

## 2. 期 日

平成14年10月17日(木)、18日(金)

## 3. 会 場

○第1日目 札幌市民会館

○第2日目 全11会場

第1分科会 札幌市立ひがしなほ幼稚園

第2分科会 札幌市立幌西小学校

第3分科会 札幌市立幌南小学校

第4分科会 札幌市立伏見小学校

第5分科会 札幌市立緑丘小学校

第6分科会 札幌市立厚別北中学校

第7分科会 札幌市立札幌中学校

第8分科会 札幌市立伏見中学校

第9分科会 北海道札幌国際情報高等学校

第10分科会 北海道札幌新川高等学校

第11分科会 北海道札幌高等養護学校

## 4. 参加対象者

- (1) 全国の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教員並びに保健体育行政関係者
- (2) 社会体育等の指導者及び大学等の研究者
- (3) 一般参加者等

## 5. 内 容

- (1) 平成14年度全国学校体育研究協議会

## 6. 日 程

- (1) 平成14年度全国学校体育研究協議会 札幌市民会館

|        | 9:30 | 10:00       | 10:30            | 11:50  | 12:40            | 13:10  | 13:50            | 14:20  | 16:00       |             |
|--------|------|-------------|------------------|--------|------------------|--------|------------------|--------|-------------|-------------|
| 10月17日 | 受付   | 開<br>会<br>式 | 特<br>別<br>講<br>演 | 昼<br>食 | 公<br>開<br>演<br>技 | 解<br>説 | 基<br>調<br>提<br>案 | シンポジウム | 閉<br>会<br>式 | 表<br>彰<br>式 |

(注) 閉会後、引き続き、財団法人日本学校体育研究連合会主催の表彰式を行います。

- (2) 第41回全国学校体育研究大会 札幌市内11会場

|        | 9:00 | 9:30    | 12:00 | 13:00     | 15:00 |  |
|--------|------|---------|-------|-----------|-------|--|
| 10月18日 | 受付   | 公開保育・授業 | 昼食    | 研究発表と研究協議 | 閉会式   |  |

(注) 第2日(分科会)の日程は、会場により多少の違いがあります。

- ①開会式 ②特別講演 ③公開演技

- ④解説

「これからの学校体育～指導と評価の一体化～」

文部科学省スポーツ・青少年局企画・体

育課教科調査官 今関 豊一

- ⑤基調提案

- ⑥シンポジウム

「体育学習における指導と評価の一体化をどのように図るか」

・コーディネーター 高橋 健夫

(筑波大学教授)

・シンポジスト

武隈 晃

(鹿児島大学助教授)

小林 美晴

(神奈川・天台小学校教諭)

伊藤 久仁

(愛知・富士見中学校教諭)

松井 雄一

(札幌市教育委員会指導主事)

・指定発言 楡井 雄一

(北海道教育大学附属札幌小学校教諭)

渡辺 隆

(北海道・宮の森中学校教諭)

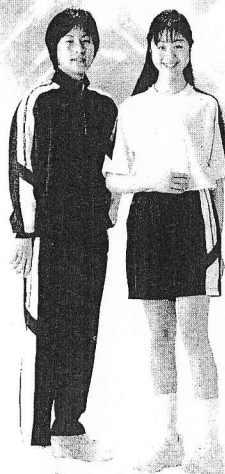
- (2) 第41回全国学校体育研究大会

- ①公開保育・授業 ②研究発表・協議

- ③指導講評

\* 関日本学校体育研究連合会理事・評議員会、都道府県代表者会議は10月16日(水)14時から京王プラザホテルにて行います。

# 素敵なスポーツフィールド、 地球のために。



このマークの付いた商品は、  
エコマークの認定を受けています。

**Columbine**

コロバインスクールスポーツウェア

〈エコマーク商品認定番号〉  
第00103019号

(財)日本学校体育研究連合会特別賛助会員  
(財)日本学校体育研究連合会推薦品

児島株式会社

本社/岡山県倉敷市児島小川2-4-60  
関東営業所/埼玉県さいたま市上小町1085  
盛岡営業所/岩手県盛岡市流通センター北1-4-18  
URL: <http://www.netlaputa.ne.jp/~kojima/>

TEL(086) 472-2830  
TEL(048) 642-5883  
TEL(019) 638-7501  
email: info@kojima-gp.co.jp



ISO 9001認証取得  
JQA-QM7340

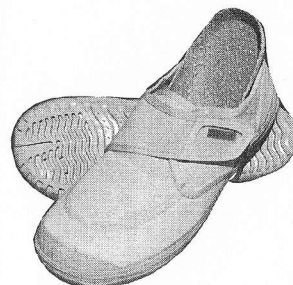
児島株式会社は、  
エコライフを応援します。  
児島(株)では、スクールスポーツウェアの  
新しい素材として、ペットボトルを再利用し  
たリサイクルマテリアルを採用しています。  
小さくフレークにされたペットボトルはファイ  
バー化され、さまざまなポリエステル繊維  
として混紡。機能的にも、従来の同混率  
素材とほとんど変わらず、地球資源の保全  
にも役立ちます。また、子供たちには、エコ  
教育のひとつとして大きな意味があり、教  
育的な見地から高い評価を得ています。

成長期の正しい足の発育促進に大きな効果を発揮する  
画期的な21世紀のシューズ!

推薦 (財)日本学校体育研究連合会  
全国小学校体育研究連盟

教育シューズ  
フレッシュ21

教育バレー®DX



特徴

- 1 足指ゆったり、自然な歩行を助ける靴型設計。
- 2 カップインソール式の中敷を採用
- 3 衝撃吸収スポンジ採用で着地時の衝撃を緩和。
- 4 0.5cmきさみのサイズ展開

(財)日本学校体育研究連合会特別賛助会員

日進ゴム株式会社

〒700-0034 岡山市高柳東町13-46  
TEL (086) 252-2456 FAX (086) 254-8595

教育シューズ 教育バレー。は、日進ゴム(株)の登録商標です。

## 新体力テスト集計・分析システム

(文部省発表新体力テスト準拠)

**SPORTS TEST**

集計・分析処理料金(1人分) 220円(税込)

みつめたい教育と未来  
**第一学習社**

学連特別賛助会員

(東京) 〒116-0013 荒川区西日暮里2-50-5 ☎ 03-3891-9802  
(大阪) 〒564-0044 吹田市南金田2-19-18 ☎ 06-6380-1391  
(広島) 〒733-8521 広島市西区横川新町7-14 ☎ 082-234-6800  
札幌・仙台・小山・横浜・名古屋・神戸・福岡・新潟・金沢・沖縄

## 写真集・自分史・社史・家族史

あなたの原稿がステキな本になります

ISO 9002 認証取得  
品質最優先の製品で  
顧客に満足と  
信頼を提供する



● 御注文専門の印刷デパート

東京 墨田 **合同印刷株式会社**

東京都墨田区業平2-9-13 TEL(3624)6111 ☎ FAX(3621)4620

代表取締役社長 長棟和子

(財)日本学校体育研究連合会 推薦教材

**NEC**

**できる学習クラブ 体育**

新学習指導要領対応!  
小学校3~6年生向け  
体育教育専用ソフト

★これからの体育教育はコンピュータ活用で!

★実技を見て、「マイプラン」を立て、「めあて」に沿った学習を展開!



表現運動5,6年



保健 身長の変化

- 「器械運動」、「表現運動」  
「体づくり」、「保健」を収録。
- 体育の事前学習に最適な内容。
- 「めあて」に沿って単元の学習  
計画を子どもが組み立てる構成。
- [指導用]には「指導案集」  
「練習カード集」を添付。

(財)日本学校体育研究連合会 特別賛助会員

NECインターチャネル株式会社

〒108-0073  
東京都港区三田1-4-28 (三田国際ビル)  
TEL: 03-5440-0733

|                 |                             |
|-----------------|-----------------------------|
| ● 動作環境          | Windows 95/98/Me/NT/2000/XP |
| ● 価格(税別)        |                             |
| [指導用]           | 14,500円                     |
| [児童用]           | 9,500円                      |
| [スクールパック11本セット] | 109,500円                    |
| [スクールパック22本セット] | 214,000円                    |
| [スクールパック42本セット] | 404,000円                    |

## 日本学校体育振興会 (通称 学体振)

我々は(財)学体連を通じて学童・生徒の体力づくりに  
貢献する異業種企業の集まりです。

会 長 山本 祐人

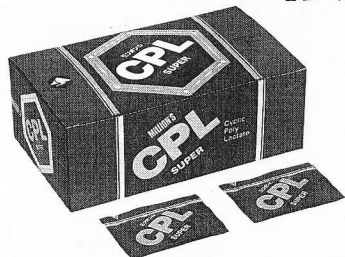
幹事長 小間井宏尚

事務所 大阪府門真市末広町40-5 アドラブル古川橋501

TEL 06-6780-6801

アガリクス・プロボリス・サメ軟骨・メシマコブ等  
ご愛用の皆様にぜひお勧めします。

## 環状重合乳酸って ご存知ですか？



ミリオンのCPLスーパー 3g×120袋 35,000円(税別)

ミリオン株式会社 〒331-0852 さいたま市桜木町1-12-5  
<http://www.millionpower.co.jp>

### 高い安全性で健康サポート

環状重合乳酸は体内の変化に対応して合成・分泌される  
活性物質ですが、体内合成される環状重合乳酸は非常に  
微量であることから、それを体外から補うという発想のもと  
につくられたものです。それに加え、ミリオンのCPLスーパ  
ーは無臭・無ニク栄養成分を合体させ一度に2つの成分  
をお届けできる画期的な商品です。

資料希望・お問合せは下記までお気軽に

**TEL 048-641-2291**

**FAX 048-641-4011**

**JTB** For Your Travel & Life  
世界をつなぐ旅と心

世界が、  
あなたを待っている。



憧れのあの国、あの街へ……、  
あなたらしさで選ぶ旅、JTB。

**LOOK JTB**

## すでにカナダ、アメリカの学校を中心に320万人がブレーする キンボール KIN-BALL

日本では、キンボール普及に携わる指導者 8,000名余りが誕生し、  
地域での交流大会も盛んに行われています。



学校体育における新しいボールゲームとして、  
注目を集めています。



**KIN-X キンボール・コンバセット Set**  
¥128,000  
キンボール1(カラー)、インナーボール1、  
セクション1(12枚1セット)、スコアボード1、  
キンボール専用電動ブロー1、ビデオ1、ルール、バッグ付き

日本キンボール連盟からのお知らせ

講習会への講師派遣を行っております。また、指導者用に競技方法がわかるビデオを無料でお貸します。  
●詳しくは、日本キンボール連盟 TEL.06-6971-9190まで、<http://www.newsports-21.com/kin-ball/>

商品のお求め、お問い合わせは……

ニューススポーツインキュベーター  
**株式会社 サンラッキー**  
本社/〒537-0012 大阪市東成区大今里3-12-23  
TEL.06-6981-4626(代) FAX.06-6981-6740

お客様窓口 ☎ 0120-81-4670

(平日は9:30~17:00 土・日・祝日は休み)  
<http://www.newsports-21.com/sunlucky/>  
E-mail:sunlucky@newsports-21.com

●弊社では様々なニューススポーツ用具の取り扱いを行っております。また、指導者の派遣や講習会の開催、イベントの企画・運営にも関わっております。

ESPA

EDUCATION SHOES PROMOTIVE ASSOCIATION

人にやさしく、足にやさしい  
運動機能高める  
科学されたシューズ。

衝撃吸収性

運動安全性

通気快適性

21世紀のシューズ!

財団法人 日本学校体育研究連合会特別賛助会員

教育シューズ振興会

会長 渡邊 昌平  
理事長 宮本 靖彦

本部事務局 〒700-0034 岡山市高柳東町13番46号 日進ゴム(株)内  
TEL (086) 252-4381 FAX (086) 254-8595